

第三高等中学校校友会誌『壬辰会雑誌』執筆者と記事目録

佐々木 幸喜
西 薊 有加利

はじめに

本稿は、明治二十五（1892）年二月、第三高等中学校⁽¹⁾の職員と生徒により発足した壬辰会⁽²⁾の校友会誌『壬辰会雑誌』の執筆者および記事の情報を整理し、紹介するものである。『壬辰会雑誌』は、前身の『青年志叢』⁽³⁾（明治二十三年十一月～明治二十四年五月。全七号）の終刊をうけ、明治二十五年三月十日に創刊。明治二十七（1894）年に高等学校令が出され、第三高等中学校が第三高等学校に改組された明治二十七年六月まで全二十四号を発行した⁽⁴⁾。A5判。

壬辰会の設立の趣旨は、第三高等中学校長・折田彦市の演説で次のように説明されている。すなわち、「課業の余暇を以て同学の生徒及職員更に一致団結し尚一層親睦して文武諸般の技芸を攻究練磨し我校の氣風を養成する」（『壬辰会発会式演説』『壬辰会雑誌』第一号、明治二十五年三月）ことであった。これは、「第三高等中学校壬辰会規則」（前掲『壬辰会雑誌』第一号）の第一条「目的」に示される、「本会ハ我第三高等中学校ニ関係アルモノ互ニ一致団結シテ文武諸般ノ技芸ヲ攻究練磨シ兼テ我校ノ氣風ヲ養成スルヲ目的トス」を踏まえての発言である。

『壬辰会雑誌』は壬辰会の「部会」の一つ⁽⁵⁾、雑誌部が発行するものであり、その規約の第一条では「知識ノ交換ト文章ノ練磨ヲ以テ目的ト」することが掲げられていた。なお、この目的は、前身の青年志叢会においては全体の「会則」で示されるものであり、それが壬辰会では雑誌部の規約に移されていることが注目される。

『壬辰会雑誌』の記事の種類としては、「雑誌部規約」第五条に示されるとおり、「論説」、「文苑」、「雑録」、「雑報」、「批評」、「校報」、「会報」があり、第七号（明治二十五年十一月）からはこれに「史伝」が加わる⁽⁶⁾。また、行事にあわせ、「祝辞」や「附録」が設けられる号もある。

一、執筆者について

執筆者たちに目を向けると、「生徒」たちの投稿として例えば、喜田貞吉（[1871-1939]、歴史学）や嘲風（姉崎正治 [1873-1949]、宗教学）ら、後に大学で教鞭を執る人物の名が、創作では醒雪（佐々政一 [1872-1917]）や青桐（河東秉五郎 [1873-1937]：碧梧桐とも）や虚子（高

浜清〔1874-1959〕、鼠骨（寒川陽光〔1874-1954〕）ら、俳人として知られる人物の名がそれぞれ見える。このうち、青桐や虚子については全集未収録の句が『壬辰会雑誌』に含まれることも調査の結果判明した。それについては別稿を設ける。一方、「職員」では、渡辺弘人〔1842-1902〕、国文学、助教授）や薩埵正邦〔1856-1897〕、法学、教授）、服部宇之吉〔1867-1939〕、中国哲学、教授）らの名が確認できる。また、彼らに加え、藤田豊八〔1869-1929〕、東洋史学）や幣原坦〔1870-1953〕、東洋史学）、山崎直方〔1870-1929〕、地理学）といった卒業生の文章が掲載されているのも特徴の一つである。まさに、『壬辰会雑誌』が、「第三高等中学校ニ関係アルモノ」が「知識ノ交換」をする場として機能することを目指していたといえるだろう。

なお、『壬辰会雑誌』は、その「投書心得」（『壬辰会雑誌』第五号、明治二十五年十月）として、「論説」は「匿名を許さず」、「其他諸欄の投稿は誌上に於て匿名苦しからずと雖本名は編集委員へ通知すべし」とあるなど、いくつかの制限があったが、筆名に関する使用制限はなかった。実際、実名にかぎらず、筆名・雅号を用いた執筆者も少なくない。筆名を用いた執筆者たちの手になるものは、先に示した種別のうち、「論説」を除き、ほぼすべてのものに確認できる。「論説」は「可成学理に就て記述あるべき」（前掲『壬辰会雑誌』第一号「雑誌部広告」）ことが求められており、その方針が、実名で投稿することにもつながっていたとも考えられる。

試みに、『壬辰会雑誌』に創作が掲載された人物のうち、筆名から特定できた人物を整理した。それが表 1 である。ここでは、同一人物に関して、創作における筆名に加え、実名についても記事とともに示した。表 1 の作成に際し、次の文献を参照した。

①中島国彦・宗像和重〔編〕『文藝時評大系 明治篇』別巻（索引）（平成十八年五月、ゆまに書房）

②日本近代文学会関西支部京都近代文学事典編集委員会〔編〕『京都近代文学事典』（平成二十五年五月、和泉書院）

表 1

『壬辰会雑誌』に創作が掲載された人物のうち、特定できた人物

本名	筆名・雅号	生没年	活動分野	記事（『壬辰会雑誌』掲載号）
佐々政一	醒雪	明治 5（1872） - 大正 6（1917）	国文学者 俳人	●本名によるもの ・詩歌（7,8,10,11） ・「連誹発句私見」（10,11,14） ■筆名・雅号によるもの ・「過去之吉田村」（6） ・詩歌数首（8） ・「迎福島少佐之長歌」（10） ・「呈底球部撰手諸氏之詞」（11） ・「悼渡辺月甫之辞」（12）
姉崎正治	嘲風	明治 6（1873） - 昭和 24（1949）	宗教学者 評論家	●本名によるもの ・「幼稚園ノ教育ニ於ケル位置」（1,2） ・「劣等動物に於ける心意現象」（4） ・「理学が近世哲学の興起に及ぼしたる影響」（8） ■筆名・雅号によるもの ・「唱歌吟詩」（6） ・「山城国内の御陵墓」（7,9） ・「シュワーベン詩壇の盟主ウーランド」（12,13）
河東兼五郎	青桐	明治 6（1873） - 昭和 12（1937）	俳人	●本名によるもの ・「俳諧につきて」（15） ■筆名・雅号によるもの ・俳句（15,16,17,18,19,20,21,22,23）
高浜清	虚子	明治 7（1874） - 昭和 34（1959）	俳人	■筆名・雅号によるもの ・俳句（10,15,16,17,18）
寒川陽光	鼠骨	明治 7（1874） - 昭和 29（1954）	俳人	■筆名・雅号によるもの ・俳句（20,21,22,23）

続く表 2 は、『壬辰会雑誌』において実名での執筆が確認できる人物を一覧にしたものである。職員については、灰色の網かけを施した。表 2 の作成に際し、次の文献を参照した。

①第三高等学校『第三高等学校創立満五十年大典記念館落成記念』（大正七年五月、第三高等学校）

→表では『記念』と略

②京都大学総合人間学部参考調査掛〔編〕『『神陵史』人名索引』（平成五年十一月、京都大学総合人間学部）

→表では『索引』と略

表 2

『壬辰会雑誌』において実名での執筆が確認できる人物一覧

連番	50音順	氏名 (『記念』の 表記)	氏名 (『壬辰会雑誌』 (『索引』の記述))	担当科目	学校長・職員 就任および退任の年度 (『記念』の記述)	生徒 卒業、転学、退学の年度 (『記念』の記述)	『壬辰会雑誌』掲載号	雑誌部関係者
1	あ	朝山益雄	朝山益雄			M25 (第三高等中学校)	1	
2		姉崎正治	姉崎正治			M26 (第三高等中学校)	1,2,4,8	編集委員
3		阿部守太郎	阿部守太郎			M26 (第三高等中学校)	1,10,11	
4		有田秀三	有田秀三			M27 (第三高等中学校)	9	
5		有吉忠一	有吉忠一			M26 (第三高等中学校)	1,6,10,11	
6	い	石井二郎	石井二郎			M27 (第三高等中学校)	10	
7		岩永淳太郎	岩永淳太郎			M28 (第三高等学校専門部)	10	
8	う	植村仁三郎	植村仁三郎			M26 (第三高等中学校)	8	
9	お	大島樸	大嶋樸			M28 (第三高等中学校)	23	
10		大林徳太郎	大林徳太郎			M27 (第三高等中学校)	18,19,20,21,22	
11		【記載なし】	大東二郎、 大東次郎				6,7,8,9,11,14	
12		岡野義三郎	岡野義三郎			M27 (第三高等中学校)	9,10,11,12	
13		岡部正	岡部正			M25 (第三高等中学校)	2,3	
14		萩野仲三郎	萩野仲三郎、 萩野仲三郎			M27 (第三高等中学校)	12,18,19,21	
15		小栗勝四郎	小栗勝四郎			M27 (第三高等中学校)	23	
16		小田徳五郎	小田鉄五郎、 小田徳五郎			M27 (第三高等中学校)	21	
17		落合謙太郎	落合謙太郎			M25 (第三高等中学校)	2,4,5	
18		尾上俊夫	尾上俊夫			M26 (第三高等中学校)	10	
19		折田彦市	折田彦市		M13-M18, M20-M43		1,5,21	
20	か	梶川栄吉	梶川栄吉			M27 (第三高等中学校)	18,19,20,21,22	
21			勝島仙之助	【農科大学教授】			23	
22		加藤正雄	加藤正雄			M27 (第三高等中学校)	12	
23		門脇三徳	門脇徳、 門脇三徳			M27 (第三高等中学校)	5,16,17,19,21, 22,23	
24		金澤正三郎	金澤正三郎			M26 (第三高等中学校)	7,8,10	
25		河東兼五郎	河東兼五郎			M27 (第三高等中学校)	15	
26	き	喜田貞吉	喜田貞吉			M26 (第三高等中学校)	7,8,11	
27		北村松之助	北村松之助			M27 (第三高等中学校)	21	
28	こ	児島修吉	児島修吉	校医	M21-M27		15	
29	さ	斉藤清太郎	斉藤清太郎			M25 (第三高等中学校)	3	
30		佐々政一 (旧名虎丸)	佐々政一			M26 (第三高等中学校)	7,8,10,11,14	
31		笹川潔	笹川潔			M27 (第三高等中学校)	1,3,4,24	編集委員
32		笹川種郎	笹川種郎、 笹川鐘郎			M26 (第三高等中学校)	1,8	編集委員 →理事

33	薩埵正邦	薩埵正邦	民法・警報・刑事訴訟法・実地演習	M23-M30	1	
34	澤田栄	澤田栄		M27 (第三高等中学校)	13, 17	
35	し 重田定一	重田定一		M27 (第三高等中学校)	18, 19, 20, 21, 24	
36	幣原喜重郎	幣原喜重郎		M25 (第三高等中学校)	12	理事
37	幣原坦	幣原坦		M23 (第三高等中学校)	2, 4, 9, 10, 12, 13	
38	篠田要次郎	篠田要次郎、 篠田要二郎		M27 (第三高等中学校)	4, 21	編集委員
39	柴原譲吉	柴原譲吉		M26 (第三高等中学校)	4	
40	清水政太郎	清水政太郎	【記載なし】	M21-M32	1	
41	清水大樹	清水大樹		M27 (第三高等中学校)	18, 19, 20, 21, 22	
42	清水友次郎	清水友次郎		M26 (第三高等中学校)	7, 8, 10, 11, 12, 13	
43	下田次郎	下田次郎		M26 (第三高等中学校)	10	
44	た 高橋慶太郎	高橋慶太郎		M27 (第三高等中学校)	2	
45	武市楠之助	武市楠之助		M27 (第三高等中学校)	20, 22, 23, 24	
46	竹下松次郎	竹下松次郎		M27 (第三高等中学校)	10	
47	竹末悌四郎 (後改武井)	竹末悌四郎		M27 (第三高等中学校)	1, 23	
48	田中昌太郎	田中昌太郎		M26 (第三高等学校専門部)	1	
49	田辺勉吉	田辺勉吉		M27 (第三高等中学校)	21	
50	つ 塚原政次	塚原政次		M27 (第三高等中学校)	21	
51	塚本巳之吉 (後改靖)	塚本巳之吉		M23 (第三高等中学校)	6, 12	
52	築山直彦	築山直彦		M27 (第三高等中学校)	8	
53	て 寺尾栄槌	寺尾栄槌		M27 (第三高等中学校)	16	
54	な 中谷民太郎	中谷民太郎		M26 (第三高等学校専門部)	5	
55	中沼清蔵	中沼清蔵	倫理、国語、漢文	M23-M28	16	
56	中村孝	中村孝		M27 (第三高等中学校)	24	
57	中村猪市	中村猪市		M31 (第三高等学校専門部)	21	
58	中村徳五郎	中村徳五郎		M27 (第三高等中学校)	20, 21, 22	
59	中村雷二	中村雷二、 中村雷二		M25 (第三高等中学校)	1	
60	成道斉二郎	成道斉二郎		M26 (第三高等中学校)	13, 14	
61	は 畑耕三	畑耕三		M27 (第三高等学校専門部)	1	
62	服部宇之吉	服部宇之吉	英語、歴史、哲学	M24-M27	1, 2, 3, 5, 6, 16, 17, 18, 19, 21	理事
63	馬場健	馬場健	修身、和漢文	M14-M29	1	
64	濱口雄幸	濱口雄幸		M25 (第三高等中学校)	9	
65	濱田恒之助	濱田恒之助		M26 (第三高等中学校)	7	
66	林増之丞	林増之丞		M27 (第三高等中学校)	1, 5, 20	
67	林森太郎	林森太郎		M26 (第三高等中学校)	7, 10, 11	
68	ひ 東寅之助	東寅之輔	会計書記	M24-M27	2	
69	平野貞一郎	平野貞一郎		M26 (第三高等中学校)	2, 3	

70	ふ	藤岡勝二	藤岡勝二		M27 (第三高等学校)	21	
71		藤田豊八	藤田豊八		M25 (第三高等学校)	1,3	編集委員
72	ほ	堀千代丸 (後改謙徳)	堀千代丸		M27 (第三高等学校)	2	
73	ま	前川亀次郎	前川亀次郎	倫理、理財、地理、歴史	M20-M44	3,7	理事
74		牧田宗太郎	牧田宗太郎	【記載なし】	M16-M17, M18-M26	15	
75		松井元治郎	松井元治郎	化学、地理、英語、地質、鉱物	M23-M28	18,20,21	
76	み	水野幸吉	水野幸吉		M27 (第三高等学校)	12	編集委員 →理事
77		水野敏之丞	水野敏之丞	物理、天文	M23-M26	7	
78		【記載なし。 後の雪嶺】	三宅雄二郎			9,10	
79		三吉兵弥	三吉兵弥		M26 (第三高等学校専門部)	3	
80	む	村川虎雄	村川虎雄		M27 (第三高等学校専門部)	4	
81		室谷修太郎	室谷脩太郎		M27 (第三高等学校)	1	
82	も	元島鼎三郎	元島鼎三郎		M27 (第三高等学校)	15,16,17,18,21, 24	編集委員
83		門田六三	門田六三		M26 (第三高等学校専門部)	1	
84	や	山崎直方	山崎直方		M25 (第三高等学校)	1,7,8,9,14	編集委員
85		山田真吉	山田真吉		M27 (第三高等学校)	22	
86		山田鉄三	山田鉄三		M26 (第三高等学校)	6	
87		山本辰之助	山本辰之助		M27 (第三高等学校)	3	
88		山本行範	山本行範		M25 (第三高等学校)	2	
89	よ	吉居豊治	吉居豊治		M25 (第三高等学校)	3	
90		吉武源五郎	吉武源五郎		M27 (第三高等学校)	6	
91	わ	【記載なし】	和田一郎		『壬辰会雑誌』第20号に 「死去」の報	15	
92		渡辺弘人	渡辺弘人	国語、漢文	M18-M27	3,7,10,16,18,19, 20,21	

二、記事について

旧制高等学校あるいはその前身である高等中学校の校友会誌に関しては、学校によって、その研究の蓄積に差があるように思われる。例えば、第一高等学校の校友会誌『校友会雑誌』(明治二十三年十一月一昭和十九年六月。全三百八十号)は、日本近代文学館の編集により DVD 版および Web 版で内容を閲覧することができる。当該誌に関する研究として、文学⁽⁷⁾に加え、メディア史⁽⁸⁾やスポーツ科学⁽⁹⁾といった他領域での言及も見られる。

第五高等学校の校友会誌『龍南会雑誌』(明治二十四年十一月一昭和二十三年三月。全二百五十五号)は、薄田千穂の調査・研究により目録が整理され、熊本大学のレポジトリで閲覧できるほか、書誌学的研究も進められている⁽¹⁰⁾。

他の学校の例を挙げるなら、例えば、第二期旧制高等学校の一つ、松本高等学校の校友会誌『校友会雑誌』（大正九年—昭和二十二年。全五十五号）は、森いづみが目録を整理している⁽¹¹⁾。

これに対し、第三高等学校あるいは第三高等学校の校友会誌に関する研究は少なく、『壬辰会雑誌』に関していえば、第一号の目録が『資料集成 旧制高等学校全書』第七巻 生活・教養編 2（旧制高等学校資料保存会〔編〕、昭和五十九年六月、旧制高等学校資料保存会刊行部）に載っていることや、『神陵史』（注（1）参照）に論説の見出しのみが抜粋され紹介されるに留まる。しかし、斉藤利彦が、「学校文化の形成過程の実証的な解明」を進めるうえで「重視されるべきはいわゆる「中央」の史料に加え、個々の学校現場の日々の営みに密着した史料であり、これらを用いて当時の学校文化を具体的に考察していくこと」⁽¹²⁾と指摘するように、雑誌を系統的に整理し分析していくことは重要である。

以下、目録を示していくが、その前に、『壬辰会雑誌』の調査を進めていく中で気づいたことをいくつか記しておきたい。

まずは、『壬辰会雑誌』「批評」欄において相互交流・議論が行われていたことが可視化できたことである⁽¹³⁾。その事例をカテゴリーに分けてみると次のようになる。すなわち、[1] 前号の投稿内容全体に対し批評を行うもの、[2] 前号の投稿内容のうち特定の一記事に対し批評を行うもの、[3] 前号の批評を読んだ第三者が次号で批評を行い新たに議論に加わるもの、といったものである。ここでは、河東秉五郎と洛西閑人のやりとりを[2]の事例として見てみたい⁽¹⁴⁾。河東秉五郎は第十五号に論説「俳諧につきて」【連番：JIN-015-論説-002】を載せた。これに対し反応したのが洛西閑人であった。洛西閑人は第十六号に批評「壬辰会雑誌第十五号評判」【連番：JIN-016-批評-002】を載せる。見出しこそ「第十五号評判」とあるが、実際には、河東秉五郎の文章⁽¹⁵⁾に対する批評に多くが割かれている。これに対し、河東秉五郎は第十七号に批評「洛西閑人の高評を読む」【連番：JIN-017-批評-001】を投稿し応答する。署名は河東生である。なお、河東秉五郎の論説二件は『河東碧梧桐全集』（全二十巻、平成十三年八月—平成二十三年四月、短詩人連盟河東碧梧桐全集編纂室）には収められておらず、特に「洛西閑人の高評を読む」は新たな発見となろう⁽¹⁶⁾。また、洛西閑人は佐々政一の可能性が高いと考えている。河東碧梧桐『子規の回想』（昭和十九年六月、昭南書房）「暗澹たる首途」に、高等学校在学時、俳句に関する議論が「佐々醒雪」との間であったことが記されている⁽¹⁷⁾のが、その根拠の一つである。一方で、最初期の『壬辰会雑誌』においては、特定の記事に対する批評が載せられていたのは、「批評」欄ではなく主に「雑録」欄であった。また、雑誌記事全体の批評が行われるようになるのは、第七号まで俟たなくてはならない。さらにいうなら、「批評」欄は毎号設けられていたわけではなく、批評を投稿する人物はほぼ毎回異なっていた。ここから、『壬辰会雑誌』では権威や偏りなく自由に活発な批評・議論が行われていたと推測できるし、その議論が一方向ではなく双方向で行われていたことが窺える。これらは、雑誌全体を通観することではじめて確認できることであり、まさに、『壬辰会雑誌』が「第三高等学校ニ関係アルモノ」が「知識ノ交換」をする場として機能していたことを示す好例といえるのではないだろうか。

もう一つ押さえておきたいのは、『壬辰会雑誌』においてナンバースクールの校友会等との交流が行われていたことが可視化できたことである。例えば、第五高等学校・龍南会や第七高等学校・造士会と直接の交流があったことが看取される。前者でいうと、第四号「雑報」の無署名「第五高等学校龍南会雑誌に曰く」【連番：JIN-004-雑報-005】や第十四号「雑報」の校友会龍南会記者硯北「謹て謝す」【連番：JIN-014-雑報-018】などがあり、後者でいうと、第七号「雑報」の無署名「造士館生徒歓迎会」【連番：JIN-007-雑報-006】や同・無署名「造士館に於ける学友会」【連番：JIN-007-雑報-010】などがある。一方で、第二高等学校、第四高等学校との交流があったかどうかは『壬辰会雑誌』の記事では確認できず、また、第五高等学校の校友会誌『龍南会雑誌』の記事では第三高等学校あるいは壬辰会との交流があったかどうかは確認できなかった。資料の整理を進めることで、他の高等学校あるいは当時の社会との関わりが見えてくる可能性もある。

こうした背景をもとに、本稿では、第三高等学校を形作ってきた校友会誌の基礎調査の一つとして、『壬辰会雑誌』の記事目録を示すことで、誌面における著作者たちのやりとりがどのように行われたかを確認してみたい。そこから、第三高等学校において『壬辰会雑誌』が果たした役割を考察するための手がかりとしていきたい。

[凡例]

本目録は、京都大学吉田南総合図書館が所蔵する『壬辰会雑誌』全二十四号（請求番号：092Ⅲ8）を整理したものである。

- ・ 第一号（明治二十五〔1892〕年三月）から第十六号（明治二十六〔1893〕年十月）までは二段組である。第十七号（明治二十六年十一月）から第二十四号（明治二十七〔1894〕年六月）は、「雑報」、「校報」、「会報」、「附録」を除き一段組である。目録に示したページ数に関し、「上」とあるのは上段、「下」とあるのは下段を意味する。
- ・ 執筆者名が示されていない記事については、「〔無署名〕」とした。
- ・ 割書き、小書きの文字は〈 〉に括って示した。
- ・ 漢字は通行の字体を用いた。異体字、譌字、略字は使用しない。
- ・ 目録の作成に際し、次の文献を参照した。

第三高等学校〔編〕『第三高等学校一覧』自明治二十六年九月至明治二十七年八月（明治二十七年一月、第三高等学校）

第三高等学校『第三高等学校創立満五十年大典記念館落成記念』（大正七年五月、第三高等学校）

中島国彦・宗像和重〔編〕『文藝時評大系 明治篇』別巻（索引）（平成十八年五月、ゆまに書房）

日本近代文学会関西支部京都近代文学事典編集委員会〔編〕『京都近代文学事典』（平成二十五年五月、和泉書院）

日本近代文学館〔編〕『日本近代文学大事典 増補改訂デジタル版』（Japan Knowledge Lib、令和七年六月三十日最終閲覧）

編集者

京都市上京区間ノ町通二条上ル夷町 石黒剣次郎

発行兼印刷者

京都市上京区大宮通寺之内上ル前ノ町 須志田源次

発行所

京都市上京区吉田町 第三高等学校校壬辰会

第一号 明治二十五年三月十日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 祝辞					
JIN-001 -祝辞-001	壬辰会発会式演説	会長 折田彦市	1上	2上	
JIN-001 -祝辞-002	祝辞十三篇		2上	12上	本文での署名は「二部二年生総代 山崎直方」「法科一年生総代 有吉忠一」「文科第一年生総代 笹川種郎」「法学部第二年生総代 門田六三」「法学部一年生総代 畑耕三」「予科第一級総代 笹川潔」「宣谷脩太郎」「予科補充生」「龍洲 馬場健」「秀華学人」「秋山子」「竹末梯四郎」「清水政太郎」
◎ 論説					
JIN-001 -論説-001	詭弁学派トハ如何ナルモノゾ	教授 服部宇之吉	12上	16下	本文での署名は「服部宇之吉」
JIN-001 -論説-002	幼稚園ノ教育ニ於ケル位置	姉崎正治	16下	19上	本文での見出しは「幼稚園の教育に於ける位置」
JIN-001 -論説-003	杜子美	藤田豊八	19上	23下	
JIN-001 -論説-004	日本国将来の形勢	有吉忠一	23下	27下	
JIN-001 -論説-005	子孫其祖父母、父母ニ対シテ正当防衛ノ権利アリヤ否ヤ	田中昌太郎	27下	30下	本文での署名は「法学部二年生 田中昌太郎」
JIN-001 -論説-006	壬辰会員の則とるべき大原理	朝山益雄	30下	34下	
◎ 文苑					
JIN-001 -文苑-001	翻訳四則（原韻文）	迷翠	34下	36下	
JIN-001 -文苑-002	わか袖	佐野二葉	36下	37下	本文での見出しは「わが袖」
JIN-001 -文苑-003	小町寺	葉月庵	37下	38下	
JIN-001 -文苑-004	哀れ	霞袖	38下	38下	
JIN-001 -文苑-005	寒夜	おなじ人	38下	39上	本文での署名は「霞袖」
JIN-001 -文苑-006	詩歌俳句数十首		39上	41上	本文での署名は「葉山愛海子」「中村雷二」「同」「孤月」「撫子花」「酔香子」
◎ 雑録					
JIN-001 -雑録-001	擬律問題及解答	教授 薩埯正邦	41上	45下	本文での見出しは「擬律問題」「解答」
JIN-001 -雑録-002	毀誉褒貶	回天居士	45下	46下	
JIN-001 -雑録-003	帝国大学ハ官吏養成所にあらず	阿部守太郎	46下	48下	本文での見出しは「帝国大学ハ官吏養成所ニアラズ」
JIN-001 -雑録-004	鉾山案内	鉄面道人	48下	52下	
JIN-001 -雑録-005	修学旅行を吊す	愛校生	52下	54上	
JIN-001 -雑録-006	元気の衰へたるを嘆ず	林増之丞	54上	57上	本文での見出しは「元氣ノ衰ヘタルヲ嘆ズ」
◎ 雑報					
JIN-001 -雑報-001	紀元節祝賀式	〔無署名〕	57上	57上	
JIN-001 -雑報-002	壬辰会発会式	〔無署名〕	57上	57下	
JIN-001 -雑報-003	本読み	〔無署名〕	57下	57下	
JIN-001 -雑報-004	工場縦覧	〔無署名〕	57下	57下	
JIN-001 -雑報-005	射的	〔無署名〕	57下	58上	

JIN-001 -雑報-006	地図	[無署名]	58上	58下	
JIN-001 -雑報-007	又	[無署名]	58下	59上	
JIN-001 -雑報-008	満目春色	[無署名]	59上	59上	本文での見出しは「満目の春色」
JIN-001 -雑報-009	月瀬観梅の采	[無署名]	59上	60上	
JIN-001 -雑報-010	学校紀年日	[無署名]	60上	60上	
JIN-001 -雑報-011	震災録	[無署名]	60上	60下	
JIN-001 -雑報-012	一片の俠骨却て下に在りて存ず	[無署名]	60下	61上	
JIN-001 -雑報-013	台嶺に登れ	[無署名]	61上	61上	
JIN-001 -雑報-014	「デーマンド」「ピシアス」地を払う	[無署名]	61上	61上	
JIN-001 -雑報-015	春は来ぬイザ如何に	[無署名]	61上	61下	
JIN-001 -雑報-016	空論亦一快事	[無署名]	61下	61下	
JIN-001 -雑報-017	偉大なる国民の資格を欠くる所なきか	[無署名]	61下	61下	
◎ 校報					
JIN-001 -校報-001	数件		62上	62上	
◎ 会報					
JIN-001 -会報-001	数件		62上	64下	本文ではここに「第三高等学校壬辰会規則」「雑誌部広告」が置かれる。

第二号 明治二十五年四月二十七日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-002 -論説-001	詭弁学派トハ如何ナルモノゾ（続）	教授 服部宇之吉	1上	4下	本文での見出しは「詭弁学派トハ如何ナルモノゾ（前号の続）」 本文での署名は「服部宇之吉」
JIN-002 -論説-002	大宝令以後鎌倉幕府に至る官制改革の景況	在文科大学 幣原坦	5上	8上	本文での署名は「幣原坦」
JIN-002 -論説-003	英国国会の起原及其変遷	落合謙太郎	8上	10上	本文での見出しは「英国々会の起原及其発達」
JIN-002 -論説-004	幼稚園の教育に於ける位置（続）	姉崎正治	10下	13上	本文での見出しは「幼稚園の教育に於ける位置（前号の続）」
JIN-002 -論説-005	孟子の外交文略	高橋慶太郎	13上	16上	
JIN-002 -論説-006	日本建築術ニ就テ	東寅之輔	16上	19上	
◎ 文苑					
JIN-002 -文苑-001	芭蕉翁桃青	撫子花	19上	22上	
JIN-002 -文苑-002	紀赤壁之戦	堀千代丸	22上	27上	
JIN-002 -文苑-003	踏雲蹴波録	得々飄客	27上	30上	
JIN-002 -文苑-004	亡き友	夏蝶	30上	31上	
JIN-002 -文苑-005	詩歌俳句十数首		31上	34上	本文での署名は「黄鼎 門脇徳」「長鐵居士」「同」「葉山愛海」「西洲生」「長流漁人」「同」「陶偏朴」「江月」「山本行範」「正徳」「月雨生」
◎ 雑録					
JIN-002 -雑録-001	壬辰会演説討論部にて会長折田大人ののたまひし辞のうつし	岡部正	34上	35下	本文での署名は「岡部正、記」
JIN-002 -雑録-002	図書借占	一二生	35下	36下	
JIN-002 -雑録-003	敢て仏教育年会の会員に所見を訴ふ	KS生	36下	37下	
JIN-002 -雑録-004	日本の形勢を論し諸君の反省を望む	平野貞一郎			本文には記載なし
JIN-002 -雑録-005	三柏庵独言	三柏庵主人	37下	39上	本文での署名は「北豊 三柏庵主人」
◎ 雑報					
JIN-002 -雑報-001	学期試験	[無署名]	39下	39下	
JIN-002 -雑報-002	春期休業	[無署名]	39下	39下	

JIN-002 -雑報-003	発火演習	[無署名]	39下	42上	41頁に地図あり
JIN-002 -雑報-004	棍棒	[無署名]	42上	42上	本文での見出しは「棍棒」
JIN-002 -雑報-005	綱引	[無署名]	42上	42下	
JIN-002 -雑報-006	射的	[無署名]	42下	42下	
JIN-002 -雑報-007	寄宿舎自脩室	[無署名]	42下	42下	
JIN-002 -雑報-008	茶話会	[無署名]	42下	43上	
JIN-002 -雑報-009	端艇	[無署名]	43上	43上	
JIN-002 -雑報-010	弓術部	[無署名]	43上	44上	
JIN-002 -雑報-011	本会演説討論部	[無署名]	44上	44上	
JIN-002 -雑報-012	演説討論部演説会	[無署名]	44上	44下	
JIN-002 -雑報-013	ベースボール部大会	[無署名]	44下	45下	
JIN-002 -雑報-014	陸上運動部大会	[無署名]	45下	50上	
◎ 校報					
JIN-002 -校報-001	数件		50上	50下	
◎ 会報					
JIN-002 -会報-001	数件		50下	51下	
本文ではここに「雑誌部広告」が置かれる。					

第三号 明治二十五年五月二十五日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-003 -論説-001	東方垂細垂の学問	教授 前川亀次郎	1上	6上	本文での署名は「前川亀次郎」
JIN-003 -論説-002	詭弁学派とは如何なる者ぞ（続）	教授 服部宇之吉	6上	10下	本文での見出しは「詭弁学派トハ如何ナルモノゾ」 本文での署名は「服部宇之吉」
JIN-003 -論説-003	楊子とハルトマン	吉屋番治	10下	15上	本文での見出しは「楊子トハルトマン」
JIN-003 -論説-004	支那の文学	藤田豊八	15上	19上	
JIN-003 -論説-005	当事者の合意に依て裁判管轄を変更するを許すの可否を論じ併せて如何なる裁判管轄は合意を以て之を變更すべき乎に及ぶ	三吉兵弥	19上	24下	本文での見出しは「当事者の合意に依て裁判管轄を変更するを許すの可否を論じ併せて如何なる裁判管轄は合意を以て之を變更し得べき乎に及ぶ」 本文での署名は、なし。
◎ 文苑					
JIN-003 -文苑-001	比良岳紀行	笹川潔	24下	26下	
JIN-003 -文苑-002	踏雲蹴波録（続）	得々飄客	27上	30上	本文での見出しは「踏雲蹴波録（続稿）」
JIN-003 -文苑-003	弾琴及海辺夏居	羽衣山人	30上	31上	本文では「弾琴」と「海辺夏居」に分かれる
JIN-003 -文苑-004	詩歌俳句数十首		30上	33上	本文での署名は「助教授 渡辺弘人」「友芳」「同」「孤月」「黄鼎橋」「中村蒼二」「同」「同」「同」「同」「下原河清軒」「同」「同」。うち、「助教授 渡辺弘人」による短歌一首、「友芳」「同」による短歌二首が「弾琴」の前に置かれる。
◎ 雑録					
JIN-003 -雑録-001	米国の青年	岡部正、記	33上	37上	本文での署名は「岡部正」
JIN-003 -雑録-002	青年の任務	土陽逸民	37上	40下	
JIN-003 -雑録-003	日本の形勢を論じ諸君の反省を望む	平野貞一郎	40下	43上	
JIN-003 -雑録-004	敢て阪府出身の諸君に告ぐ	山本辰之助	43上	44上	本文での見出しは「敢て阪府出身諸君ニ告ク」
◎ 批評					
JIN-003 -批評-001	高橋慶太郎君の「孟子の外交政略を読む」	斉藤清太郎	44下	49下	本文での見出しは「高橋慶太郎君の「孟子の外交政略」を読む」

◎ 雑報				
JIN-003 -雑報-001	数件	49下	53下	本文での見出しは「橋ひ起す当年当日の事」「五月十一日」「花開いて壮志勃々」「逝く春の名残を惜しむ」「杜鵑」「心を虚うし春に其来意を問ふ」「動植物採集の好時期」「蘇苔類」「活力試験」「賑々遊」「陸上運動部春季大会に於て一等賞受領者」「演説討論部」。「賑々遊」の後に「牛後子」と署名あり。
◎ 校報				
JIN-003 -校報-001	数件	53下	54下	
◎ 会報				
JIN-003 -会報-001	数件	54下	55上	

第四号 明治二十五年六月十六日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
◎ 論説				
JIN-004 -論説-001	大宝令以後鎌倉幕府に至る官制改革の景況（続）	在文科大学 幣原坦	1上	4上 本文での署名は「幣原坦」
JIN-004 -論説-002	英国国会の起源及其発達（続）	落合謙太郎	4上	8下 本文での見出しは「英国国会の 起源及其発達（第二号の続）」
JIN-004 -論説-003	カーチナル、リセリユー	笹川潔	8下	15下
JIN-004 -論説-004	秘密投票ト公開投票トノ利害	柴原謙吉	15下	21上
JIN-004 -論説-005	劣等動物に於ける心意現象	姉崎正治	21上	28下
JIN-004 -論説-006	治外法権論	村川虎雄	29上	32下
◎ 文苑				
JIN-004 -文苑-001	踏雲蹴波録	得々瓢客	32下	35下 本文での見出しは「踏雲蹴波録 （続稿）」
JIN-004 -文苑-002	夏の夕	楠蔭一夫	35下	36上
JIN-004 -文苑-003	天外有声樓日記抄	天外有声樓主人	36上	38下
JIN-004 -文苑-004	都のかりずまい	蘆舟生	38下	41上 本文での見出しは「都のかりす まい」
JIN-004 -文苑-005	一谷懐古	羽衣山人	41上	41下 本文での署名は「はごろも」
JIN-004 -文苑-006	詩数首		41下	42上 本文での署名は「王章庫」 「同」
◎ 雑録				
JIN-004 -雑録-001	写真術の歴史	と、つ生	42上	44下 本文での見出しは「写真之術歴 史」 本文での署名は「二、一、と、 つ生」
JIN-004 -雑録-002	京都近傍鉱物採集案内	鉄脚子	44下	46下
JIN-004 -雑録-003	山本辰之助君の反省を請ひ併せて天下に謝す	篠田要次郎	47上	49上 本文での見出しは「山本辰之助 君ノ反省ヲ請ヒ併セテ天下ニ謝 ス」
◎ 雑報				
JIN-004 -雑報-001	夏期休業は来れり	[無署名]	49上	49上 本文での見出しは「夏期休業来 れり」
JIN-004 -雑報-002	卒業生諸氏を送る	[無署名]	49上	49下
JIN-004 -雑報-003	処々陽関の歌を聴く	[無署名]	49下	49下 本文での見出しは「処々陽関の 歌を聴く」
JIN-004 -雑報-004	食虫植物		49下	49下 本文での署名は「(N.Y.)」
JIN-004 -雑報-005	第五高等学校龍南会雑誌に曰く	[無署名]	49下	50上
JIN-004 -雑報-006	春季第二回演習	[無署名]	50上	52上 本文での見出しは「春季第二回 演習」 51頁に地図が掲載されている
JIN-004 -雑報-007	演習余録	[無署名]	52上	53上 本文での見出しは「露営」「斥 候」「進軍」「激戦」
JIN-004 -雑報-008	活力試験の結果	[無署名]	53上	54上

㊟ 会報				
JIN-004 -会報-001	数件	54上	54上	

第五号 明治二十五年十月六日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
JIN-005 -告諭-001	入学生徒への告諭	校長 折田彦市	1上	2上 本文での見出しは「入学生徒へノ告諭」
㊟ 論説				
JIN-005 -論説-001	詭弁学派とは如何なるものぞ（続）	教授 服部宇之吉	2上	8下 本文での見出しは「詭弁学者トハ如何ナルモノゾ（接第三号）」
JIN-005 -論説-002	英国国会の起源及其発達（完結）	落合謙太郎	8下	14下 本文での見出しは「英国国会の起源及其発達（承前）」
㊟ 文苑				
JIN-005 -文苑-001	吸霞日記抄	浅井龍劔	14下	18下 本文での署名は「浅井龍劔」
JIN-005 -文苑-002	都の仮住居（承前）	蘆舟生	19上	20下 本文での見出しは「都のかりずまゐ（承前）」
JIN-005 -文苑-003	ドラ	那岐の舎訳	20下	23下
JIN-005 -文苑-004	夢といふことを	耐堂生訳	23下	24上 本文での署名は「耐堂生補訳」
JIN-005 -文苑-005	夕立	楠蔭一夫	24上	25上
JIN-005 -文苑-006	送永浜盛三本多五六入大学序	門脇徳	25上	26下 本文での署名は「黄鼎 門脇徳」
JIN-005 -文苑-007	詩歌数首		26下	27下 本文での署名は「残照生」「同」「黄鼎 徳」「式妄」「莊環翠生」
㊟ 雑録				
JIN-005 -雑録-001	新学年を迎ふ	臥松生	27下	30上
JIN-005 -雑録-002	天帝論と唯心論	林増之丞	30上	33上 本文での見出しは「天帝論ト唯心論」
JIN-005 -雑録-003	四季の擬解	春山居士	33上	36下
JIN-005 -雑録-004	帰郷雑筆	慎斎居士	36下	38上
㊟ 批評				
JIN-005 -批評-001	子孫は其祖父母父母に対し正当防衛の権利ある可らず	中谷民太郎	38上	39下 本文での見出しは「子孫ハ其祖父母、父母ニ対シ正当防衛ノ権利アル可カラズ」
㊟ 雑報				
JIN-005 -雑報-001	十数件		39下	48下 本文での見出しは「本校卒業式」「新学年」「光焰万丈長」「編集員謹みて申す」「新入学生諸氏を迎ふ」「時来れり」「法学部に於ける教師の増聘」「出陳物の沈没」「石器時代の遺物」「本学年始業」「ボートレース」「入学生」「投書一通」「悼亡」
㊟ 校報				
JIN-005 -校報-001	数件		48下	49下
㊟ 会報				
JIN-005 -会報-001	数件		49下	51下 本文ではここに「投書心得」「雑誌部広告」が置かれる。

第六号 明治二十五年十月三十日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
㊟ 論説				
JIN-006 -論説-001	詭弁学派トハ如何ナルモノゾ（了）	教授 服部宇之吉	1上	4下 本文での見出しは「詭弁学派トハ如何ナルモノゾ（承前）」 本文での署名は「服部宇之吉」

JIN-006 -論説-002	本邦の仏塔	在工科大学 塚本巳之吉	4下	8上	本文での署名は「塚本巳之吉」
JIN-006 -論説-003	唐主世民	山田鉄三	8上	10下	
◎ 文苑					
JIN-006 -文苑-001	過去之吉田村	醒雪	10下	12上	
JIN-006 -文苑-002	うたかた	北洲生	12上	16上	
JIN-006 -文苑-003	詩歌数首		16上	18上	本文での署名は「春山」「玉乗 鷹」「黄鼎」「間」「莊璵翠 生」
◎ 雑録					
JIN-006 -雑録-001	鈴木教授の訓諭を聞て	有吉忠一	18上	20上	本文での見出しは「鈴木教授の 訓諭を聞きて」
JIN-006 -雑録-002	病床漫筆	月甫子	20上	23下	
JIN-006 -雑録-003	観潮録	大東二郎	23下	26上	
JIN-006 -雑録-004	鎖港攘夷と開国論者永井雅楽	吉武源五郎	26下	32下	
JIN-006 -雑録-005	唱歌吟詩	嘲風	32下	35上	
JIN-006 -雑録-006	みやげ	孤峰子	35上	40下	本文での署名は「孤峰生」
◎ 雑報					
JIN-006 -雑報-001	旧都の秋色	[無署名]	40下	41上	
JIN-006 -雑報-002	後一条天皇菩提樹院陵	[無署名]	41上	41上	
JIN-006 -雑報-003	故平山先生之一年祭	[無署名]	41上	41下	
JIN-006 -雑報-004	徳星旧都の天に聚る	[無署名]	41下	41下	本文での見出しは「徳星旧都の 天に集まる」
JIN-006 -雑報-005	校内の造営	[無署名]	41下	42上	
JIN-006 -雑報-006	大坂図幅		42上	42上	本文での見出しは「大坂図幅」 本文での署名は「(N,Y.)」
JIN-006 -雑報-007	石器時代之遺跡	[無署名]	42下	42下	本文での見出しは「石器時代の 遺跡」
JIN-006 -雑報-008	仏語科の新設	[無署名]	42下	42下	
JIN-006 -雑報-009	制服更定の要	[無署名]	42下	43下	本文での見出しは「制服を更定 すべし」
JIN-006 -雑報-010	新結合	[無署名]	43下	43下	
JIN-006 -雑報-011	演説討論部例会	[無署名]	43下	44下	
JIN-006 -雑報-012	再び促す	[無署名]	44下	44下	
JIN-006 -雑報-013	時正に可し	[無署名]	44下	44下	
JIN-006 -雑報-014	欲	[無署名]	44下	44下	
JIN-006 -雑報-015	語を寄す	[無署名]	44下	45上	
JIN-006 -雑報-016	難哉	[無署名]	45上	45下	
JIN-006 -雑報-017	疑ふ	[無署名]	45下	45下	
JIN-006 -雑報-018	答者曰く	[無署名]	45下	46上	
JIN-006 -雑報-019	疑者曰く	[無署名]	46上	46上	
JIN-006 -雑報-020	噫	[無署名]	46上	46上	
JIN-006 -雑報-021	借占とは何ぞ	[無署名]	46上	46上	
JIN-006 -雑報-022	歳余ニヶ月	[無署名]	46上	46下	
JIN-006 -雑報-023	安心立命	[無署名]	46下	46下	
JIN-006 -雑報-024	法学会	[無署名]	46下	46下	
JIN-006 -雑報-025	寄贈雑誌	[無署名]	46上	46上	本文での見出しは「本会へ寄贈 されたる雑誌」
「(以上記事十月十五日脱稿)」と記される。					
◎ 校報					
JIN-006 -校報-001	数件		47上	48上	
◎ 会報					
JIN-006 -会報-001	数件		48上	49下	本文ではここに「広告」が置か れる。

第七号 明治二十五年十一月三十日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
◎ 論説				
JIN-007 -論説-001	学問の大弊、	教授 前川亀次郎	1上	6上 本文での見出しは「学問の大弊」 本文での署名は「前川亀次郎」
JIN-007 -論説-002	上古国家組織と自由制度発達の関係	濱田恒之助	6上	9下
◎ 文苑				
JIN-007 -文苑-001	哀悼の詞	斧江	9下	11上
JIN-007 -文苑-002	天長節の夜月いとよく澄み渡りければよめる	助教授 渡辺弘人	11上	11下 本文での見出しは「天長節の夜月いとよく澄み渡りければよめる」 本文での署名は「渡辺弘人」
JIN-007 -文苑-003	秋の詠	吟遊子	11下	12上
JIN-007 -文苑-004	詩歌数首		12上	17上 本文での署名は「畠田貞吉」 「金澤正三郎」「清水友次郎」 「林森太郎」「佐々政一」「畠田貞吉」 「佐々政一」「清水友次郎」 「斧江後子」「西維拙」 「黄鼎 門脇徳」「王閑人戯稿」
◎ 史伝				
JIN-007 -史伝-001	ファラデー氏に就て	教授 水野敏之丞	17上	19上 本文での見出しは「ファラデー氏に就て」 本文での署名は「水野敏之丞」
JIN-007 -史伝-002	海防僧月性	黙笑生	19上	23上
◎ 雑録				
JIN-007 -雑録-001	観潮録（承前）	大東次郎	23上	24上 本文での見出しは「観潮録（続）」 本文での署名は「大東二郎」
JIN-007 -雑録-002	山城国内の御陵墓	嘲風	24下	28下
JIN-007 -雑録-003	修学旅行の断行を望む	臥松生	28下	33下
JIN-007 -雑録-004	或場合に於ける副保証人の責任の有無に就て（問題及び答案）	青山居士	33下	35下 本文での見出しは「或ル場合に於ケル副保証人ノ責任ノ有無ニ就テ（問題及ヒ答案）」 本文での署名は「青山居士」
◎ 批評				
JIN-007 -批評-001	本誌第六号の略評	慎斉	35下	40下
◎ 雑報				
JIN-007 -雑報-001	天長嘉節	[無署名]	40下	40下
JIN-007 -雑報-002	倫理科の変更	[無署名]	40下	41上
JIN-007 -雑報-003	警む	[無署名]	41上	41上
JIN-007 -雑報-004	告ぐ	[無署名]	41上	41上
JIN-007 -雑報-005	好事を紹介す	[無署名]	41下	42上
JIN-007 -雑報-006	造士館生徒歓迎会	[無署名]	42上	43上 本文での見出しは「鹿児島高等中学造士館生徒歓迎会」
JIN-007 -雑報-007	弓術部射場開場式	[無署名]	43上	43下
JIN-007 -雑報-008	疎水渠辺の採集物		43下	44上 本文での署名は「（ほ生）」
JIN-007 -雑報-009	「学友」記者に望む	[無署名]	44上	44上
JIN-007 -雑報-010	造士館に於ける学友会	[無署名]	44上	44下
JIN-007 -雑報-011	法一会	[無署名]	44下	44下
JIN-007 -雑報-012	以文会	[無署名]	44下	45上
JIN-007 -雑報-013	討論の結果	[無署名]	45上	45下
JIN-007 -雑報-014	東山又西山	[無署名]	45下	46上
JIN-007 -雑報-015	学科の増設	[無署名]	46上	46上
JIN-007 -雑報-016	臨時試験	[無署名]	46上	46下
JIN-007 -雑報-017	所望〈其一〉	[無署名]	46下	46下
JIN-007 -雑報-018	所望〈其二〉	[無署名]	46下	47上
JIN-007 -雑報-019	演説討論部	[無署名]	47上	47下
JIN-007 -雑報-020	底球部大会	[無署名]	47下	47下

JIN-007 -雑報-021	近眼	[無署名]	47下	48上
JIN-007 -雑報-022	ウエスト嬢	[無署名]	48上	48上
JIN-007 -雑報-023	高野永源寺	[無署名]	48上	49上
JIN-007 -雑報-024	基督教青年会園遊会	[無署名]	49上	49上
JIN-007 -雑報-025	東風不競	[無署名]	49上	52下
JIN-007 -雑報-026	風蕭々兮越山白	[無署名]	52下	52下

JIN-007 -雑報-027	東信	[無署名]	52下	56上	記事は八件。そのうち、前半の四件（「壬辰会雑誌」「同窓会」「三中学校課の増設」「大学運動会」）は「幣原喜重郎君寄」、後半の四件（「理科大学懇親会」「文科大学遠足会」「法科大学政治科」「二教授の新任」）は「山崎直方君寄」
-----------------	----	-------	-----	-----	---

◎ 校報				
JIN-007 -校報-001	数件		56下	56下
◎ 会報				
JIN-007 -会報-001	数件		56下	57下
本文ではここに「投書心得」「雑誌部広告」が置かれる。				

第八号 明治二十五年十二月十九日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
◎ 論説				
JIN-008 -論説-001	詩弁	笹川種郎	1上	7上
JIN-008 -論説-002	理学が近世哲学の興起に及ぼしたる影響	姉崎正治	7上	20下 本文での見出しは「理学が近世哲学の興起に及ぼしたる影響」
JIN-008 -論説-003	オリヴァー、ゴールドスミス	植村仁三郎	20下	28下 本文での見出しは「オリヴァー、ゴールドスミス」
◎ 文苑				
JIN-008 -文苑-001	渡辺月甫の郷に帰るを送る	龍月	28下	29上
JIN-008 -文苑-002	詩歌数首		29上	31上 本文での署名は「金澤正三郎」「喜田貞吉」「清水友次郎」「佐々政一」「清水友次郎」「林森太郎」「金澤正三郎」「竹友」「黄鼎」「築山直彦」「同」「醒雪」

◎ 史伝				
JIN-008 -史伝-001	井伊直弼	元島慎齊	31上	38下 本文での見出しは「井伊直弼論」
◎ 雑録				
JIN-008 -雑録-001	観潮録（承前）	大東二郎	39上	44下
JIN-008 -雑録-002	本邦石器時代の遺物に就て	在理科大学 山崎直方	44下	47下
JIN-008 -雑録-003	我校に於ける国文学	竹窓	48上	49下
JIN-008 -雑録-004	古画中に在る家屋等の画法	は、に、	49下	51下 本文での見出しは「古画にある家屋等の画法」
JIN-008 -雑録-005	ウエスト嬢の演説筆記		51下	55下 本文での見出しは「ウエスト嬢ノ演説筆記」 本文での署名は「演説討論部理事」

◎ 雑報				
JIN-008 -雑報-001	歳暮の辞	[無署名]	55下	55下
JIN-008 -雑報-002	訃音	[無署名]	56上	56上
JIN-008 -雑報-003	注意を求む	[無署名]	56上	56下 本文での見出しは「注意を望む」
JIN-008 -雑報-004	然し乍ら勉めよ	[無署名]	56下	57上
JIN-008 -雑報-005	孤憤		57上	57下 本文での署名は「孤憤生投」
JIN-008 -雑報-006	壬辰会と朝鮮征伐	[無署名]	57下	58上

JIN-008 -雑報-007	花咲社	[無署名]	58上	58上	
JIN-008 -雑報-008	懸賞問題の行方	[無署名]	58上	58下	
JIN-008 -雑報-009	桜井駅の碑	[無署名]	58下	59上	
JIN-008 -雑報-010	三宅学士の講演	[無署名]	59上	59上	
JIN-008 -雑報-011	雑誌部役員の変動	[無署名]	59上	59下	
JIN-008 -雑報-012	寄贈雑誌	[無署名]	59下	60下	
JIN-008 -雑報-013	底球部大会	[無署名]	60下	61上	
◎ 校報					
JIN-008 -校報-001	一件		61上	61上	本文での署名は「書記 武田六之助」
◎ 会報					
JIN-008 -会報-001	数件		61上	62上	本文ではここに「投書心得」「雑誌部広告」「広告」「雑誌部募集」が置かれる。

第九号 明治二十六年一月二十七日					
	タイトル	執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-009 -論説-001	我国に於ける男子の中等教育	在文科大学 幣原坦	1上	4下	
JIN-009 -論説-002	大文字山背の接触鉱物に就て	在理科大学 山崎直方	4下	6下	本文での署名は「在京 山崎直方」
JIN-009 -論説-003	儒海涓滴	岡野義三郎	6下	18下	
◎ 文苑					
JIN-009 -文苑-001	豆相紀行	在法科大学 濱口雄幸	18下	27上	本文での署名は「在法科大学 海南 浜口雄幸」
JIN-009 -文苑-002	窮作者	暮潮漁客訳	27上	31上	
JIN-009 -文苑-003	イルメナウの夕景色	夢伯林士	31上	31下	
JIN-009 -文苑-004	詩歌俳句数首		31下	32下	本文での署名は「有田秀三」「夢伯林士」「王象鷹」「青藤」
◎ 史伝					
JIN-009 -史伝-001	井伊直弼（終）	元島慎斉	32下	42下	本文での見出しは「井伊直弼（承前）」
◎ 雑録					
JIN-009 -雑録-001	観潮録（承前）	大東二郎	42下	44下	
JIN-009 -雑録-002	山城国内の御陵墓（終）	嘲風	44下	50上	
JIN-009 -雑録-003					本文ではここに「龜山」による「不朽之盛事」が掲載されている（頁は50上-52上）
JIN-009 -雑録-004	迷惑	文学士 三宅雄二郎氏述	52上	54上	本文での見出しは「感迷」 本文での署名は「文学士 三宅雄二郎君述」
JIN-009 -雑録-005	飄遊記	黙笑生	54上	57下	
JIN-009 -雑録-006	読我観小景	未観生	57下	59上	
◎ 批評					
JIN-009 -批評-001	本誌前号略評	四国三郎	59上	65下	
JIN-009 -批評-002	壬辰会雑誌第八号短評	白眼奴	65下	68上	
◎ 雑報					
JIN-009 -雑報-001	癸巳初刊の辞	[無署名]	68上	68下	
JIN-009 -雑報-002	旧都の歳首	[無署名]	68下	69上	
JIN-009 -雑報-003	本校一覧	[無署名]	69上	69上	
JIN-009 -雑報-004	雑誌部理事の新任	[無署名]	69下	69下	
JIN-009 -雑報-005	壬辰会創立後一週年	[無署名]	69下	69下	本文での見出しは「壬辰会創立一週年」
JIN-009 -雑報-006	三余	[無署名]	69下	70下	

JIN-009 -雑報-007	演説討論部々員	[無署名]	70下	70下	本文での見出しは「演説討論部員」
JIN-009 -雑報-008	ベースボール試合	[無署名]	70下	74上	
JIN-009 -雑報-009	寄贈雑誌	[無署名]	74上	74上	
◎ 校報					
JIN-009 -校報-001	一件		74下	74下	
◎ 会報					
JIN-009 -会報-001	数件		74下	75上	
本文ではここに「広告」が置かれる。					

第十号 明治二十六年二月二十七日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-010 -論説-001	我国に於ける男子の中等教育（承前）	在文科大学 幣原坦	1上	3下	本文での署名は「幣原坦」
JIN-010 -論説-002	儒海涓滴（承前）	岡野義三郎	3下	9下	
JIN-010 -論説-003	連誹発句私見	佐々政一	9下	16下	
JIN-010 -論説-004	電気と人心	下田次郎	16下	22下	
◎ 文苑					
JIN-010 -文苑-001	詩歌俳句数十首		22下	26下	本文での署名は「斧江」「斧江吟遊」「林森太郎」「阿部守太郎」「清水友次郎」「佐々政一」「金澤正三郎」「有吉忠一」「金澤正三郎」「太郎冠者」「石井二郎」「虚子生」「黄鼎」「王秉鷹」
◎ 雑録					
JIN-010 -雑録-001	紀元節日講話	渡辺助教授	26下	29下	本文での署名は「渡辺弘人」
JIN-010 -雑録-002	惑迷（承前）	文学士 三宅雄二郎氏述	29下	34上	本文での署名は「文学士 三宅雄二郎君述」
JIN-010 -雑録-003	疎水渠辺の石器	ほ、へ、	34上	35上	本文での見出しは「疎水渠辺ノ石器」
◎ 批評					
JIN-010 -批評-001	本誌第九号略評	孤峰生	35上	40上	
◎ 雑報					
JIN-010 -雑報-001	孝明天皇祭	[無署名]	40上	40上	
JIN-010 -雑報-002	紀元嘉節	[無署名]	40下	40下	
JIN-010 -雑報-003	壬辰会創立一週年記念式	[無署名]	40下	44上	
JIN-010 -雑報-004	仏教青年会大会	[無署名]	44上	44下	
JIN-010 -雑報-005	兵式旅行	[無署名]	44下	45上	本文では「同楽園」の次に「兵式旅行」が置かれている
JIN-010 -雑報-006	同楽園	[無署名]	44下	44下	
JIN-010 -雑報-007	希望	[無署名]	45上	45上	
JIN-010 -雑報-008	上加茂池	[無署名]	45上	45上	
JIN-010 -雑報-009	代言試験及第者	[無署名]	45上	45下	
JIN-010 -雑報-010	法学会の近況	[無署名]	45下	46上	
JIN-010 -雑報-011	弓術部教員招聘	[無署名]	46上	46上	
JIN-010 -雑報-012	寄贈雑誌	[無署名]	46上	46下	
◎ 校報					
JIN-010 -校報-001	二件		46下	46下	
◎ 会報					
JIN-010 -会報-001	一件		46下	46下	
◎ 附録					
JIN-010 -附録-000	福島少佐歓迎詩歌文章		49上	63上	
JIN-010 -附録-001	福島少佐ヲ歓迎スルノ文	竹下松次郎	49上	49下	目次に記載なし

JIN-010 - 附録-002	福島少佐の偉業	孤峰生	49下	50下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-003	歓迎歌	蟠山	51上	51下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-004	福島少佐	桃園	51下	53上	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-005	福島少佐の帰朝したまふを	林森太郎	53上	53下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-006	福島少佐歓迎歌	穉月	53下	55上	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-007	迎福島少佐之長歌	醒雪	55上	55下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-008	福島少佐帰朝を歓迎するうた六節	紫山	55下	56下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-009	迎福島少佐	石井二郎	56下	56下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-010	福島少佐歓迎ノ歌	中村機庭	56下	56下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-011	福島少佐歓迎の歌	尾上俊夫	56下	59下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-012	福島少佐を迎ふ	蛙坐井	59下	60下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-013	凱旋行	王乗鷹未定稿	60下	62上	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-014	歓迎歌	蟠山野史	62上	62下	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-015	贈福島少佐凡五章	門脇黄鼎	62下	63上	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-016	謹贈福島少佐	岩永淳太郎	63上	63上	目次に記載なし
JIN-010 - 附録-017	同	同	63上	63上	目次に記載なし

第十一号 明治二十六年三月十八日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-011 - 論説-001	儒海涓滴（完結）	岡野義三郎	1上	10上	
JIN-011 - 論説-002	連詠発句私見（承前）	佐々政一	10上	13下	
JIN-011 - 論説-003	靈魂の滅不滅を論して岡野君の論に及ぶ	清水友次郎	13下	22上	本文での見出しは「靈魂の滅不滅を論して岡野君の論に及ぶ」
◎ 文苑					
JIN-011 - 文苑-001	窮作者（承前）	暮潮漁客訳	22上	24上	
JIN-011 - 文苑-002	詩歌数首		24下	26上	本文での署名は「喜田貞吉」「佐々政一」「有吉忠一」「喜田貞吉」「清水友次郎」「阿部守太郎」「林森太郎」「阿部守太郎」「有吉忠一」「佐々政一」「門脇黄鼎」「巖蝶」
◎ 雑録					
JIN-011 - 雑録-001	観潮録（続稿）	大東二郎	26上	30下	本文での見出しは「観潮録（承前）」
JIN-011 - 雑録-002	工場巡覧雑記	と、ち	30下	32上	
JIN-011 - 雑録-003	優劣の定名	孤峰	32上	33上	
JIN-011 - 雑録-004	呈底球部撰手諸氏の詞	醒雪	33上	33下	
◎ 批評					
JIN-011 - 批評-001	孤峰子に対ふ	岡野篁隅	33下	35下	
JIN-011 - 批評-002	本誌第十号略評	贅筆若老	35下	40上	
◎ 雑報					
JIN-011 - 雑報-001	訓諭	[無署名]	40上	41上	
JIN-011 - 雑報-002	本校創立記念日	[無署名]	41上	41下	
JIN-011 - 雑報-003	演説討論部例会	[無署名]	41下	42上	
JIN-011 - 雑報-004	倫理学科授業時間	[無署名]	42上	42下	
JIN-011 - 雑報-005	早起	[無署名]	42下	43上	
JIN-011 - 雑報-006	千鳥倶楽部	[無署名]	43上	43下	
JIN-011 - 雑報-007	同倶楽部の競漕会	[無署名]	43下	43下	本文での見出しは「同倶楽部之競漕会」
JIN-011 - 雑報-008	伊勢参宮	[無署名]	43下	44下	
JIN-011 - 雑報-009	逸蛇録	[無署名]	44下	47下	
JIN-011 - 雑報-010	投書数通	[無署名]	47下	48上	
JIN-011 - 雑報-011	寄贈雑誌	[無署名]	48上	48下	

◎ 校報				
JIN-011 -校報-001	一件		49上	49上
◎ 会報				
JIN-011 -会報-001	一件		49上	50下
◎ 附録				
JIN-011 -附録-001	一泊行軍記事	[無署名]	1上	13上
				本文ではここに「広告」が置かれる。

第十二号 明治二十六年四月二十五日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
◎ 論説				
JIN-012 -論説-001	我国に於ける男子の中等教育（続）	在文科大学 幣原坦	1上	5上 本文での署名は「幣原坦」
JIN-012 -論説-002	靈魂に関する卑見を略述して清水君の批難に答ふ	岡野義三郎	5上	15上 本文での見出しは「靈魂に関する卑見を略述して清水君の非難に答ふ」
◎ 文苑				
JIN-012 -文苑-001	琵琶湖周遊紀行	適斉生	15上	20上
JIN-012 -文苑-002	渡辺熊蔵君を哭す	水野幸吉	20上	22下
JIN-012 -文苑-003	渡辺熊蔵君を悼む	清水友次郎	22下	24上
JIN-012 -文苑-004	悼渡辺月雨之辞	醒雪	24上	24下
JIN-012 -文苑-005	詩歌俳司十数首		24下	26下 本文での署名は「黄鼎逸史」「桃園」「読入しらす」「青藤」
◎ 史伝				
JIN-012 -史伝-001	本邦裝飾術之沿革	在工科大学 塚本巳之吉	26下	32上 本文での見出しは「本邦裝飾術沿革」
JIN-012 -史伝-002	シュワーベン詩壇の盟主ウーランド	嘲風	32上	36下
◎ 批評				
JIN-012 -批評-001	岡野君の對に答ふ	孤峰生	36下	37下 本文での署名は「孤峰」
◎ 雑報				
JIN-012 -雑報-001	都の春	[無署名]	38上	38上
JIN-012 -雑報-002	何ぞ多忙なる	[無署名]	38上	38上 本文での見出しは「何んぞ多忙なる」
JIN-012 -雑報-003	壬辰会の艦隊太湖を一週す	[無署名]	38上	38下 本文での見出しは「壬辰会の艦隊太湖を一週す」
JIN-012 -雑報-004	一片の義心	[無署名]	38下	38下
JIN-012 -雑報-005	三校競漕会	[無署名]	38下	39上
JIN-012 -雑報-006	嗚呼偉なるかな偉なるかな	[無署名]	39上	39下
JIN-012 -雑報-007	神洲の聲寧児を歓迎せよ	[無署名]	39下	40上 本文での見出しは「奮ふて神洲の寧寧児を歓迎せよ」
JIN-012 -雑報-008	近日の文筆界	[無署名]	40上	40上
JIN-012 -雑報-009	徴兵令中猶予年限の改正	[無署名]	40上	40下
JIN-012 -雑報-010	運動各部の近況	[無署名]	40下	41下
JIN-012 -雑報-011	旗色翻々	[無署名]	41下	41下
JIN-012 -雑報-012	花の名所	[無署名]	41下	42上
JIN-012 -雑報-013	嗚呼悼哉	[無署名]	42上	42下
JIN-012 -雑報-014	寄贈雑誌	[無署名]	42下	43下
JIN-012 -雑報-015				本文ではここに「在法科大学 幣原喜重郎」による「東信」が掲載されている（頁は43下-47上）
◎ 校報				
JIN-012 -校報-001	三件		47上	47上
◎ 会報				
JIN-012 -会報-001	二件		47上	48上

◎ 附録				
JIN-012 -附録-001	行軍紀程	I 上	10下	本文での署名は「萩野仲三郎」「加藤正雄」の連名

第十三号 明治二十六年五月二十五日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
◎ 論説				
JIN-013 -論説-001	我国に於ける男子の中等教育（完結）	在文科大学 幣原坦	I 上	7下 本文での見出しは「我国に於ける男子の中等教育（承前）」 本文での署名は「幣原坦」
JIN-013 -論説-002	約因を論し進て法学者の通弊に及ぶ	一部（法）二年 成通斉二郎	7下	13下 本文での見出しは「約因を論し進て法学者の通弊に及ぶ」 本文での署名は「成通斉二郎」
◎ 文苑				
JIN-013 -文苑-001	窮作者（承前）	暮潮漁客訳	13下	17下 本文での見出しは「窮作者（続）」
JIN-013 -文苑-002	琵琶湖周遊紀行（承前）	適斉生	18上	27上
◎ 史伝				
JIN-013 -史伝-001	シュワーベン詩壇の盟主ウーランド	嘲風	27上	33下 本文での見出しは「シュワーベン詩壇の盟主ウーランド（承前）」
◎ 雑録				
JIN-013 -雑録-001	心物汎論	清水友次郎	34上	38上
JIN-013 -雑録-002	数を論ず	澤田栄	38上	44下 本文での署名は「北麓 澤田栄」
◎ 雑報				
JIN-013 -雑報-001	山風便	[無署名]	44下	45上
JIN-013 -雑報-002	一昨年の今月	[無署名]	45上	45上
JIN-013 -雑報-003	撰手の苦心	[無署名]	45上	45下
JIN-013 -雑報-004	警鐘	[無署名]	45下	45下
JIN-013 -雑報-005				本文ではここに「活力試験」の記述。無署名。（頁は45下）
JIN-013 -雑報-006	大討論会	[無署名]	45下	46上
JIN-013 -雑報-007	陸上運動部大会	[無署名]	46上	50下
JIN-013 -雑報-008	卒業証書授与式	[無署名]	50下	51下 本文での見出しは「卒業証書の授与」
JIN-013 -雑報-009	奴郎不弁玉石不分	[無署名]	51下	53上
JIN-013 -雑報-010	談判の結果	[無署名]	53上	53上
JIN-013 -雑報-011	寄宿舎時事	[無署名]	53上	53下
JIN-013 -雑報-012	寄贈雑誌及書籍	[無署名]	53下	54下
◎ 校報				
JIN-013 -校報-001	一件		54下	54下
◎ 会報				
JIN-013 -会報-001	数件		54下	55下 本文ではここに「広告」が置かれる。

◎ 附録				
JIN-013 - 附録-001	演説討論部討論会記事	I 上	24 下	附録によれば、明治二十六年四月二十二日に「春期大討論会」が体操場で開かれたという。 「討論題」二つと論者をあわせて示す。 (一) 土地ハ公有トス可キヤ私有トス可キヤ 教授 巖谷孫公有主論者 教授 重岡薫五郎君／阿部守太郎君 (二) 道徳ハ宗教ニ依ルニ非ズンバ完全ニ行フ能ハザル乎 積極主論者 教授 前川龜二郎君／吉武源五郎君 消極主論者 教授 薩埵正邦君／林増之丞君

第十四号 明治二十六年六月二十五日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
◎ 論説				
JIN-014 - 論説-001	連俳発句私見（完結）	佐々政一	I 上	13 上 本文での見出しは「連俳発句私見（承前）」
JIN-014 - 論説-002	約因を論して法学者の通弊に及ぶ（完結）	成通齊二郎	13 上	19 下 本文での見出しは「約因を論じて法学者の通弊に及ぶ（承前）」
◎ 文苑				
JIN-014 - 文苑-001	窮作者（完結）	暮潮漁客訳	19 下	24 上 本文での見出しは「窮作者（続）」
JIN-014 - 文苑-002	琵琶湖周遊紀行（完結）	適斉生	24 上	31 上 本文での見出しは「琵琶湖周遊紀行（承前）」 本文での署名は「適斎」
JIN-014 - 文苑-003	比良山行	台麓	31 上	34 上 本文での署名は「台麓誌」
JIN-014 - 文苑-004	詩数首		34 上	34 下 本文での署名は「黙笑生」
◎ 雑録				
JIN-014 - 雑録-001	観潮録（完結）	大東二郎	34 下	42 下 本文での見出しは「観潮録（つぎ）」
JIN-014 - 雑録-002	行軍紀程を読みて	山崎直方	42 下	45 上 本文での見出しは「行軍紀程を読みて」
JIN-014 - 雑録-003	疎水渠辺の石器に就きて	黒顔子	45 上	45 下 本文での見出しは「疎水渠辺の石器に就て」
JIN-014 - 雑録-004	述懐	孤峰	45 下	49 上
JIN-014 - 雑録-005	夏期休業の近くにつれて家郷を憶ふ	慎斉	49 上	52 下 本文での見出しは「夏期休業の近づくにつれて家郷を憶ふ」
◎ 雑報				
JIN-014 - 雑報-001	卒業生諸君を送る	[無署名]	52 下	53 上
JIN-014 - 雑報-002	夏期休暇来んとす	[無署名]	53 上	53 下
JIN-014 - 雑報-003	而して諸君に約すべき者あり	[無署名]	53 下	54 上 本文での見出しは「而して諸君に約すべきものあり」
JIN-014 - 雑報-004	温酒而送東遊	[無署名]	54 上	54 上
JIN-014 - 雑報-005	ギューリツク先生	[無署名]	54 下	54 下 本文での見出しは「ギューリツク先生」
JIN-014 - 雑報-006	消暑策	[無署名]	54 下	55 下
JIN-014 - 雑報-007	午後の文庫閲覧室	[無署名]	55 下	56 上
JIN-014 - 雑報-008	吾妻岳の破裂	[無署名]	56 上	56 上 本文での見出しは「吾妻山の破裂」 記事の末尾に「（六月五日稿）」とある。
JIN-014 - 雑報-009	失題	[無署名]	56 上	57 上
JIN-014 - 雑報-010	吉田の暮	[無署名]	57 上	57 下

JIN-014 -雑報-011	構外時事	[無署名]	57下	58上	本文での見出しは「構外記事」 記事の末尾に「(十五日稿)」 とある。
JIN-014 -雑報-012	ベースボール大会	[無署名]	58上	60上	
JIN-014 -雑報-013	一日過御苑	[無署名]	60上	60上	
JIN-014 -雑報-014	露營演習	[無署名]	60上	61下	
JIN-014 -雑報-015	柔道試合	[無署名]	61下	61下	
JIN-014 -雑報-016	和気露々龍城の南	[無署名]	62上	62上	
JIN-014 -雑報-017	編集子の述懐	[無署名]	62上	62下	本文での見出しは「編集子之述 懐」
JIN-014 -雑報-018	望むらくは	[無署名]	62下	62下	
JIN-014 -雑報-019	謹て謝す	校友会龍南会 記者硯北	62下	63上	
JIN-014 -雑報-020	寄贈雑誌	[無署名]	63上	64上	
JIN-014 -雑報-021					本文ではここに「山崎教授の転 任」の記述。無署名。(頁は64 上-66上)
JIN-014 -雑報-022					続く記事として「大送別会」の 記述。無署名。(頁は66下)
					雑誌部役員の名が挙がる。順に 「笹川鐘郎」「姉崎正治」「増 田米吉」「笹川深」「福原金 吉」「水野幸吉」
◎ 会報					
JIN-014 -会報-001	一件		66下	66下	

第十五号 明治二十六年十月十一日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-015 -論説-001	近視眼の予防及撰生法に就て	医局医員 児島修吉	1上	8下	本文での見出しは「近視眼ノ予 防及ヒ撰生法ニ就テ」
JIN-015 -論説-002	俳諧につきて	河東兼五郎	8下	15上	本文での見出しは「俳句につ きて」
◎ 文苑					
JIN-015 -文苑-001	詩歌数首		15上	16上	本文での署名は「滋賀為吉」 「王乗鷹」「同」「同」「黙笑 生」「三峰」「同」「虚子」 「青桐」「虚子」「同」「青 桐」「曠白」
◎ 雑録					
JIN-015 -雑録-001	排問録	からしな	16下	19下	
JIN-015 -雑録-002	告会友諸君	牧田宗太郎	19下	20上	本文での見出しは「会友諸君に 告ぐ」 タイトルの下に「(明治二十六 年九月一日稿)」とある。
JIN-015 -雑録-003	亡友宇野美太郎君を追哭す	元島鼎三郎	20上	21上	
JIN-015 -雑録-004	落魄	K. S.生	21上	25上	
JIN-015 -雑録-005	徳性の涵養	和田一郎	25上	29上	
◎ 雑報					
JIN-015 -雑報-001	本学年始業式	[無署名]	29上	29下	
JIN-015 -雑報-002	本校卒業式	[無署名]	29下	36下	
JIN-015 -雑報-003	本学季初刊之辞	[無署名]	36下	37上	
JIN-015 -雑報-004	新学年は来りぬ	[無署名]	37上	37上	
JIN-015 -雑報-005	願くは誌面の光彩を添へよ	[無署名]	37上	37下	
JIN-015 -雑報-006	新校友を迎ふ	[無署名]	37下	39上	
JIN-015 -雑報-007	旧師を送る	[無署名]	39上	39上	
JIN-015 -雑報-008	新先生を迎ふ	[無署名]	39下	39下	本文での見出しは「新先生を迎 ふ」
JIN-015 -雑報-009	ジェーンズ氏	[無署名]	39下	40上	
JIN-015 -雑報-010	帝国大学卒業生	[無署名]	40上	40下	

JIN-015 -雑報-011	特待生	[無署名]	40下	41上	
JIN-015 -雑報-012	卒業生の志望学課	[無署名]	41上	41下	本文での見出しは「卒業生の志望学科」
JIN-015 -雑報-013	無声会	[無署名]	41下	41下	
JIN-015 -雑報-014	読め	[無署名]	41下	42上	
JIN-015 -雑報-015	伝染病予防談	[無署名]	42上	42上	
JIN-015 -雑報-016	訃聞	[無署名]	42上	42上	
JIN-015 -雑報-017	千鳥倶楽部員の伊吹行	[無署名]	42上	43下	
JIN-015 -雑報-018	ベースボール	[無署名]	43下	44上	
JIN-015 -雑報-019	寄贈雑誌書冊	[無署名]	44上	45上	本文での見出しは「寄贈雑誌、書冊」
JIN-015 -雑報-020					本文ではここに「六句寸草」の記述。無署名。(頁は45上)
◎ 校報					
JIN-015 -校報-001	数件		45上	48下	
◎ 会報					
JIN-015 -会報-001	数件		48下	49下	
◎ 附録					
JIN-015 -附録-001	肝付兼行君演説筆記		1上	13上	本文での見出しは「海軍大佐肝付兼行君演説筆記」。記事の署名は「旧編集員」
					本文ではここに「投書彙規」が置かれる。

第十六号 明治二十六年十月三十一日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					
JIN-016 -論説-001	デカルトの哲学	教授 服部宇之吉	1上	7上	
JIN-016 -論説-002	我国文学の現在及び将来を論ず	元島鼎二郎	7上	13下	
◎ 文苑					
JIN-016 -文苑-001	寄宿舎の秋の夕	酔香	13下	14上	
JIN-016 -文苑-002	恂々説	教授 中沼清蔵	14下	14下	
JIN-016 -文苑-003	詩、歌、俳句、		14下	18下	記事の署名は「滋賀為古」「助教授 渡辺弘人」「奥東人」「藤村」「黄鼎 門脇徳」「寧斎 野口式」「青桐」「虚子」「子」「桐」「桐」「子」「子」「桐」「桐」「子」
					ここに、「正誤」として次のものが示される。 「本誌 前号文苑欄内王秉鷹氏の寿詩第一行「有翁八十凌青年」は「耆翁八十凌青年」の誤植」
◎ 史伝					
JIN-016 -史伝-001	ウイリアム、ウオーツウオース	木々庵主人	18下	25下	本文での見出しは「ウイリヤム、ウオーツウオース」
JIN-016 -史伝-002	ちやーれす、ぢっけんす、	南溟漁長	25下	27上	本文での見出しは「ちやーれす、ぢっけんす」
JIN-016 -史伝-003	日本数学史考	寺尾栄槌	27上	40上	本文での見出しは「日本数学史」
◎ 雑録					
JIN-016 -雑録-001	心霊の自由	尚古道入	40下	43上	
JIN-016 -雑録-002	知己	無髯堂主人	43上	46上	
◎ 批評					
JIN-016 -批評-001	評林	天上人	46上	46下	

JIN-016 -批評-002	壬辰会雑誌第十五号評判	洛西閑人	46下	48上	
◎ 雑報					
JIN-016 -雑報-001	数項	[無署名]	48上	51上	記事のタイトルは「秋風都門に入る」「正に近きにあり」「脾肉の嘆あり」「改正と新説」「茶話会」「哲学思想の発達乎」「演説討論部」「悲報」「望二郎諸君」「寄送雑誌」
◎ 校報					
JIN-016 -校報-001	数件		51上	52上	
◎ 会報					
JIN-016 -会報-002	二件		52上	53下	本文ではここに「投書条規」が置かれ、続いて、「六号活字」で印刷すべきところを「植字工の誤にて」「五号活字」にしたことを詫げる文が置かれる。

第十七号 明治二十六年十一月三十日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。					
◎ 論説					
JIN-017 -論説-001	デカルトの哲学	教授 服部宇之吉	1	14	本文での見出しは「でかるとの哲学（承前）」
JIN-017 -論説-002	我国文学の現在及将来を論ず	元島鼎三郎	14	20	本文での見出しは「我国文学の現在及び将来を論ず（承前）」
◎ 文苑					
JIN-017 -文苑-001	詩、歌、俳句		20	21	本文での署名は「桂」「黄鼎」「門脇徳」「酔香」「青桐」「虚子」「青桐」「虚子」
◎ 史伝					
JIN-017 -史伝-001	ちやーれす、ちっけんす	南浜漁長	22	26	本文での見出しは「ちやーれす、ちっけんす（接前）」 本文での署名は「南浜漁長」
◎ 雑録					
JIN-017 -雑録-001	生命保険に就て	澤田栄	27	41	本文での見出しは「生命保険に就きて」
JIN-017 -雑録-002	慶長以後日本文学者年表私稿	三子纂	41	50	本文での見出しは「慶長以後日本文学者年表草案」 署名1つめの漢字は「平」の右に「頁」、2つめの漢字は「良」偏に「頁」
JIN-017 -雑録-003	排悶録	からしな	50	53	
◎ 批評					
JIN-017 -批評-001	洛西閑人の高評を読む	河東生	53	58	
JIN-017 -批評-002	壬辰会雑誌第十六号批評	秋瘦生	58	61	本文での見出しは「壬辰会雑誌第十六号批評」
JIN-017 -批評-003	前号概評	屈庵	61	65上	漢字は「虫」偏に「獲」の右側
◎ 雑報					
JIN-017 -雑報-001			65上	81下	本文での見出しは「天長節」「撃剣柔道部大会」「演説討論部」「尊を雪くは今日にあり」「旬日の中」「落葉片々」「寄贈雑誌」「柔道級別及席順」「水上運動部第一回端艇競漕會」「対同志社端艇競漕會」
◎ 校報					
JIN-017 -校報-001	数件		81下	81下	
◎ 会報					
JIN-017 -会報-001	数件		81下	82下	本文ではここに「懸賞論文募集」が置かれる。

第十八号 明治二十六年十二月二十二日 タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
					「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。
◎ 論説					
JIN-018 -論説-001	デカルトノ哲学（承前）	教授 服部宇之吉	1	11	本文での見出しは「でかるとの哲学（承前）」
JIN-018 -論説-002	我国文学の現在及将来を論ず（完結）	元島鼎三郎	11	16	本文での見出しは「我国文学の現在及び将来を論ず（承前）」
◎ 文苑					
JIN-018 -文苑-001	秋雨の辞	風の里人	16	17	
JIN-018 -文苑-002	歌、詩、俳句、		17	21	本文での署名はまず、「助教渡辺弘人聞」。これは「萩野仲三郎」「梶川栄吉」「清水大樹」「大林徳太郎」「梶川栄吉」「清水大樹」「清水大樹」「萩野仲三郎」「梶川栄吉」「重田定一」「大林徳太郎」「露香」「かつら」「滋賀為吉」に該当するか。これに、「同」「黄鼎 門臨徳」「三峰」「桜霞生」「岐山」「鳥す」「曉白」「秋竹」「虚子」「青桐」が続く。
◎ 雑録					
JIN-018 -雑録-001	溶液之説	教授 松井元治郎	21	26	本文での見出しは「溶液ノ説」
JIN-018 -雑録-002	慶長以後日本文学者年表草案（承前）	頓頭子	26上	31下	本文での見出しは「慶長以後日本文学者年表草案」。 本文での署名は「 三三 子纂」。署名1つめの漢字は「平」の右に「頁」、2つめの漢字は「 臣 」偏に「頁」
JIN-018 -雑録-003	枯草一籠	陶偏 三	31	33	署名3つめの漢字は「 オ 」偏に「ト」
JIN-018 -雑録-004	平安文学に就て	臥松	33	35	本文での見出しは「平安の文学に就て」
◎ 批評					
JIN-018 -批評-001	前号の批評を読みて卑見を述ぶ	慎斉	35	40	本文での見出しは「前号の批評を読み卑見を述ぶ」
JIN-018 -批評-002	前号の略評	龍仲間	40	42	ここに「正誤」として「（前号批評欄河東生文）」に関するものが示される。
◎ 雑報					
JIN-018 -雑報-001	（演説討論大会、野球部試合、演習記事等）		42上	58下	本文での見出しは「突已終刊の辞」「歳晚」「柔道寒稽古」「青年会館開館式」「懸賞論文募集」「ベースホール試合」「文庫閲覧時間の伸長を望む」「如春越」「演説討論部大会」「野外演習」「寄贈雑誌」。このうち、「ベースホール試合」は「（弥史氏、投）」とある。
◎ 校報					
JIN-018 -校報-001	数件		58下	58下	
◎ 附録					
JIN-018 -附録-001	討論会記事		1上	24下	本文での見出しは「秋期大討論会記事」 本文ではここに「懸賞論文募集」が置かれる。

第十九号 明治二十七年一月三十一日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。				
◎ 論説				
JIN-019 -論説-001	デルカトの哲学（承前）	教授 服部宇之吉	1	5 本文での見出しは「デカルトの哲学（承前）」
◎ 文苑				
JIN-019 -文苑-001	送虚子辞	木々庵	6	7 本文での署名は「木々庵」
JIN-019 -文苑-002	旅はじめの記	里松	7	11
JIN-019 -文苑-003	歌、詩、俳句、		11	14 本文での署名は「渡辺弘人」。これに続き、「助教教授 渡辺弘人撰」。これは「清水大樹」「萩野仲三郎」「清水大樹」「清水大樹」「梶川栄吉」「大林徳太郎」「梶川栄吉」「清水大樹」「重田定一」「萩野仲三郎」に該当するか。これに、「浙西 皇甫堤」「楚客」「梧桐」「曦白」「子々」が続く。
◎ 史伝				
JIN-019 -史伝-001	ちや一れす、ちつけんす、（承前）	南溟漁長	14	19
◎ 雑録				
JIN-019 -雑録-001	朝鮮亡命人■泳孝の事を記して訴ふる所あり	門脇三徳	19	29 目次での見出し6つめの漢字は「オ」偏に「ト」 本文での見出しは「朝鮮亡命人朴泳孝ノ事ヲ記シテ訴フル所アリ」
JIN-019 -雑録-002	今年の計	厄破来	29	32
JIN-019 -雑録-003	灯下録	松風庵	32	35 本文での署名は「松風庵主人」
JIN-019 -雑録-004	慶長以後文学者年表（完）	■■子	36上	43下 本文での見出しは「慶長以後文学者年表(承前)」 本文での署名は「■■子纂」。署名1つめの漢字は「平」の右に「頁」、2つめの漢字は「臣」の右に「頁」
◎ 批評				
JIN-019 -批評-001	前号の略評	屈伸自在生	43	45 本文での見出しは「前号略評」
JIN-019 -批評-002	前号文苑略評	売花翁	45	46
◎ 雑報				
JIN-019 -雑報-001			47上	51上 本文での見出しは「虚喘辞」「寒稽古」「敢て告く」「一番一憂」「一覽表」「記念史籍」「農科」「寄贈雑誌」
◎ 校報				
JIN-019 -校報-001	数件		51上	51下
◎ 会報				
JIN-019 -会報-001	数件		51下	51下

第二十号 明治二十七年二月二十八日				
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁 実際の記事に関する備考
「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。				
◎ 論説				
JIN-020 -論説-001	電気分離説	教授 松井元治郎	1	6
JIN-020 -論説-002	米国革命を論ず	武市楠之助	6	18

◎ 文苑					
JIN-020 -文苑-001	わか宿	逸堂	18	20	本文での見出しは「わが宿」
JIN-020 -文苑-002	吉田山賦	里松	20	21	
JIN-020 -文苑-003	歌、詩、俳句、		21	24	本文での署名はまず、「助教渡辺弘人撰」。これは「中村徳五郎」「重田定一」「梶川栄吉」「重田定一」「中村徳五郎」「大林徳太郎」「梶川栄吉」「大林徳太郎」「清水大樹」「清水大樹」「大林徳太郎」に該当するか。これに、「藤村」「おなし人」「おなし人」「かつら」「長流漁人」「同」「耕雲」「温」「木岡」「醒桜」「烏寸」「自適」「睡白」「臥骨」「青桐」が続く。
◎ 雑録					
JIN-020 -雑録-001	灯下録（其二）	松風庵	24	28	本文での見出しは「灯下録（承前）」 本文での署名は「松風庵主人」
JIN-020 -雑録-002	何を以て本校々風の精神となすや	林増之丞	28	30	
JIN-020 -雑録-003	吾底球部に就て	孤憤子	30	32	本文での署名は「部員 孤憤子」
◎ 批評					
JIN-020 -批評-001	第十八号を読む	自適生	32	34	ここに「編者誌」のことばとして、「誌面の都合にて」「自適生の批評文」の採録が「本号」になったことを記す。
JIN-020 -批評-002	前号略評	乾坤堂	35	37	
JIN-020 -批評-003					ここに「雪月花村之人」による歌「月旦」が置かれる。
◎ 雑報					
JIN-020 -雑報-001	壬辰会二週年会、柔道寒稽古納め、愈々等		37上	55下	本文での見出しは「紀元節祝賀式」「壬辰会二週年紀念会」「寄宿舍茶話会」「演説討論部例会」「仏教育青年会四週年祝賀式」「柔道寒稽古納め」「来住」「愈々」「弓術部近況」「我校科学界」「明治二十六年一月起同年十二月止 第三高等中学校和漢圖書増減表」「明治二十六年一月起同年十二月止 第三高等中学校英仏蘭獨圖書増減表」「六花紛々」「寄贈雑誌」。このうち、「弓術部近況」は「（二十日稿）」とある。
JIN-020 -雑報-002					51頁下に「嗟哉」が置かれ、「法科一年生和田一郎氏の死去を知らせる。」
◎ 校報					
JIN-020 -校報-001	数件		55下	56下	
◎ 会報					
JIN-020 -会報-001	一件		56下		
					ここに「二十一号原稿締切三月六日限」と書かれる。

第二十一号 明治二十七年三月二十六日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
					「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。
◎ 賀辞					

JIN-021 - 賀辞-001			1	13	本文での署名は「臣 折田彦市ら謹みて申す」「生徒総代 藤岡勝二頓首謹白」「篠田要次郎」「塚原政次」「田辺勉吉」「北村松之助」「助教授 渡辺弘人」「藤岡勝二」「萩野仲三郎」「重田定一」「春江」「篠の屋主人」「中村猪市」「中村孝上」「貴鼎 門脇徳」
◎ 論説					
JIN-021 - 論説-001	でかるとの哲学（承前）	教授 服部宇之吉	15	21	本文での見出しは「デカルトの哲学（承前）」
JIN-021 - 論説-002	電気分離説（完結）	教授 松井元治郎	21	26	本文での見出しは「電気分離説（承前）」
JIN-021 - 論説-003	果林子の世話物を読む	元島鼎三郎	26	35	
◎ 文苑					
JIN-021 - 文苑-001	かちどき	樫月	35	37	
JIN-021 - 文苑-002	随筆しなされた	瑯琊	37	38	本文での署名は「㊦瑯琊」。㊦は「王」偏に「耶」
JIN-021 - 文苑-003	歌、詩、俳句、		39	45	本文での署名は「丘岳生」「大林徳太郎」「梶川栄吉」「大林徳太郎」「藤岡勝二」「中村徳五郎」「同」「清水大樹」「梶川栄吉」「清水大樹」「萩野仲三郎」「滋賀為古」「露香」「篠の屋」「かつら」「貴鼎 門脇徳」「隅君子」「鳥寸」「鼠骨」「暁白」「木岡」「青桐」「自通」「秋竹」
◎ 史伝					
JIN-021 - 史伝-001	ちやーれすちづけんす（完結）	南浜漁長	46	56	本文での見出しは「ちやーれす、ちづけんす（接前）」 47,50頁は白紙
◎ 雑録					
JIN-021 - 雑録-001	灯下録（完結）	松風庵主人	57	58	本文での見出しは「灯下録（承前）」
JIN-021 - 雑録-002	糖靴録	陶偏㊦	58	62	署名3つめの漢字は「㊦」偏に「ト」 本文での署名は「陶㊦朴」。署名2つめの漢字は「偏」の「イ」が「㊦」
JIN-021 - 雑録-003	和田一郎君を悼む	小田鉄五郎	63	64	本文での署名は「小田徳五郎」
◎ 批評					
JIN-021 - 批評-001	前号論評	K、S、生	64	68	本文での見出しは「前号評論」 本文での署名は「K.S.生」
JIN-021 - 批評-002	前号大略評	無責任生	68	69	
◎ 雑報					
JIN-021 - 雑報-001	大婚二十五年奉賀式、灯火行進、端艇競漕会、等		69上	90上	本文での見出しは「大婚二十五年奉賀式」「灯火行進」「弓術部競点会」「千島倶楽部第二回競漕会」「其の前後」「底球近事」「第一高等学校校友会ベースボール部員の西下に就きて」「千島倶楽部＝大湖周航」「児島国手送別会」「望むらくは」「在大学先輩諸氏視北」「諸会合の現況」「惜別」「こぼれ梅」「寄贈雑誌」「正誤」。このうち、「千島倶楽部第二回競漕会」の署名は「（某生）」、「在大学先輩諸氏視北」の署名は「侃々生」。
◎ 校報					
JIN-021 - 校報-001	数件		90上	91下	
◎ 会報					
JIN-021 - 会報-001	一件		91下	91下	
ここに「懸賞論文募集」が置かれる。					

第二十二号 明治二十七年四月三十日		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
タイトル					
◎ 論説					
JIN-022 -論説-001	養気説	谷干城	1	8	
JIN-022 -論説-002	妖怪論	武市楠之助	9	21	
◎ 文苑					
JIN-022 -文苑-001	歌、詩、俳句、		22	26	本文での署名は「藤村」「梶川栄吉」「岡」「中村徳五郎」「清水大樹」「中村徳五郎」「大林徳太郎」「露香」「西海」「黄鼎 門脇徳」「鼠骨 青桐作」
◎ 雑録					
JIN-022 -雑録-001	厚サ計り	工、二、山田真吉	26	34	本文での見出しは「厚サ計り」 本文での署名は「工二年 山田真吉」
◎ 批評					
JIN-022 -批評-001	雑咏、七絶八首	白眼歌者	34	35	本文での見出しは「雑咏」 本文での署名は「白眼歌者 山陽」
JIN-022 -批評-002	七言律二首	巨眼子	35	35	本文での見出しは「七英髦」 「天下知（某新聞記事）」
JIN-022 -批評-003	壬辰会雑誌第二十一号を読む	八面鋒	35	36	
JIN-022 -批評-004	読糧靴録有感	節巖	36	38	
◎ 雑報					
JIN-022 -雑報-001	陸上運動部大会、短艇競漕等		38上	54上	本文での見出しは「千鳥倶楽部第二回競漕会（前号雑報補遺）」「隈山將軍」「表勝旗授与式」「陸上運動部大会」「文相の来校」「発火演習と修学旅行」「漫言」「寄贈雑誌」「陸上運動部大会受賞者」
					ここに「都合により本号に限り校報 会報両欄を略す」と書かれる。
					ここに「第一回懸賞文に就きて」が置かれる。

第二十三号 明治二十七年五月三十日		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
タイトル					
					「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。
◎ 論説					
JIN-023 -論説-001	妖怪論（承前）	武市楠之助	1	14	
◎ 文苑					
JIN-023 -文苑-001	養金魚説	門脇徳	14	15	本文での署名は「黄鼎 門脇徳」
JIN-023 -文苑-002	歌、詩、俳句、		15	17	本文での署名は「小栗勝四郎」「大島樸」「小栗勝四郎」「同人」「大島樸」「同人」「黄鼎 門脇徳」「加亨」「岐山」「野坂」「烏寸」「秋竹」「醒梅」「■白」（1つめの漢字は白へんに載）「鼠骨」「自道」「木間」「青桐」「酔香」
◎ 雑録					
JIN-023 -雑録-001	農学の必要を述べて農科大学に及ぶ、	農科大学教授 勝島仙之助	17	29	本文での見出しは「農学の必要を述べて農科大学に及ぶ」 本文での署名は「農科大学教授勝島仙之助述 逸堂筆記」

JIN-023 -雑録-002	文典に就て	竹末梯四郎	29	32	
◎ 批評					本文での種別表記は「批評」
JIN-023 -批評-001	雑詠五首	鉄髯和尚	32	33	
JIN-023 -批評-002	前号盲評	近眼子	33	35	
JIN-023 -批評-003	節巖氏に答ふ	陶偏朴	35	37	本文での署名は「陶偏■」。3つめの漢字は「サ」偏に「ト」。
◎ 雑報					
JIN-023 -雑報-001	開校紀元式、沖縄中学生歓迎等		37上	50上	本文での見出しは「開校紀元式」「喙、開校紀元式」「開校紀元茶話会」「在東都三中間窓会」「終園内外」「水泳」「仏教育年会春期大会」「沖縄尋常中学生歓迎会」「大学入学生の前途」「杜鵑一二声」
◎ 校報					
JIN-023 -校報-001	数件		50上	51下	
◎ 会報					
JIN-023 -会報-001	数件		51下	52上	

第二十四号 明治二十七年六月三十日					
タイトル		執筆者	開始頁	終了頁	実際の記事に関する備考
◎ 論説					「目次」と同じ頁の下段に「投書に就きての注意」が置かれる。
JIN-024 -論説-001	大学によりなされたる特種の事業	笹川潔	1	8	本文での見出しは「大学によりて為されたる特種の事業」
JIN-024 -論説-002	果林子の世話物を読む（完結）	元島鼎三郎	8	21	本文での見出しは「果林子の世話物を読む（承前）」
JIN-024 -論説-003	妖怪論（完結）	武市楠之助	21	38	本文での見出しは「妖怪論」
◎ 文苑					
JIN-024 -文苑-001	懸賞入選長歌「神楽岡」二篇		38	41	第一等賞は「文科二年 重田定一（瑞穂生）」、第二等賞は「予科一級 中村孝（埋木生）」
JIN-024 -文苑-002	詩歌俳句		42	44	本文での署名は「不二之舎主人」「疎狂生」「野狂生拝読妄批」「木々庵」
◎ 雑録					
JIN-024 -雑録-001	真正なる国家の光誉	K. S.生	44	49	本文での署名は「K S 生」
JIN-024 -雑録-002	苔の下露	南溟 淳風 共編	49	56	本文での署名は「南溟 淳風 稿」
JIN-024 -雑録-003	ソリタリー、ウォーキング	無髯堂主人	57	60	
◎ 批評					
JIN-024 -批評-001	妖怪論の批評につきて	K. T.	61	63	本文での見出しは「妖怪論の批評に就て」 本文での署名は「K T 生」
JIN-024 -批評-002	近眼子の盲評につきて	遠眼子	63	64	
◎ 雑報					
JIN-024 -雑報-001	学校長の諭告、基球部並千島倶楽部対同志社運動会交渉の結果、基球部大会等		64上	80上	本文での見出しは「終刊之辞」「学校長の諭告」「全校卒業生送別会」「基球部並に千島倶楽部：対・同志社運動会交渉の結末」「志賀泰山氏の講話」「寄宿舎茶話会」「沖縄中学生の消息」「基球部大会」「澤田榮氏逝く」「寄贈雜誌」

■ 補足情報：雑誌部の理事および編集委員に関する記述

第一号（明治二十五年三月十日発行）「会報」

雑誌部理事	服部宇之吉	幣原喜重郎	
同編集委員	平井深造	藤田豊八	山崎直方
	笹川種郎	笹川潔	

第五号（明治二十五年十月六日発行）「会報」

「新に撰挙せられて上任せし本会の役員左の如し」

雑誌部理事	服部宇之吉	笹川種郎	
編集委員	渡辺熊蔵	増田米吉	福原金吉
	姉崎正治	水野幸吉	

第八号（明治二十五年十二月十九日発行）「会報」

「雑誌部理事服部宇之吉氏は職を辞し会長之を許可したり、同部編集員渡辺熊蔵氏辞任、笹川潔氏補欠上任」

第九号（明治二十六年一月二十七日発行）「会報」

「雑誌部理事ハ前川亀次郎氏補欠上任」

第十四号（明治二十六年六月二十五日発行）「会報」

「本学年終刊の編集結了に際し一言申上候私共不調法なる身を以て此の重任を汚し候以來最早一年と相成申候、長の月日には候得共元来の枯腸にて本誌の光彩を増すなどの事は中々以て出来不申誠に不相済儀何卒海山の量に御寛容被下度候毎月の発刊如何様にか滞なく相済まし候は偏へに会員諸君の御蔭と御礼申候任期は今月、用務は是れにて相終はり候へは御託旁々御礼申上度如斯御座候」

雑誌部役員	笹川 鍾 郎	姉崎正治	増田米吉
	笹川潔	福原金吉	水野幸吉

第十五号（明治二十六年十月十一日発行）「会報」

「新に撰挙せられて上任せし本会の役員左の如し」

雑誌部理事	前川亀次郎	水野幸吉	
編集委員	篠田要次郎	元島鼎三郎	堤正謙
	栗本勇之助	矢野太郎	

第二十三号（明治二十七年五月三十日発行）「雑報」

「編集委員篠田要次郎氏事を以て辞せられ後任として笹川潔氏就任せらる」

第二十三号（明治二十七年五月三十日発行）「会報」

「雑誌部編集委員篠田要次郎氏辞任ニ付会則ニヨリ同部理事ノ指名ヲ以テ笹川潔氏名上任」

第二十四号（明治二十七年六月三十日発行）「雑報」終刊の辞

「八丁畷の麦畑は刈られて早稲の苗覚束なげに露を結び、如意嶽の大文字も木立繁りて夏瘦か細りて見ゆ、ア、学年は今終らんとす、／学年試業は廿六日を以て終り、卒業証書授与式は来月の七日を以て行はるべし、而して同窓諸子は愛らしき故園に向ふて四散

すべし、／乃ち本号を以て壬辰会雑誌が本年に於ける終刊となす、／終刊か、終刊か、四散か、四散か、吾人をして悪語識をなすの感あらしむる勿れ……………／誤つて 乏^{マダ}を筆硯の任に承けてより爰に一年、空前の多事と呼ばれし本学年に当つて耳目の要務に在りし吾人の事業を顧みれば坐ろに諸君の倚負に背く多きを感じずんば ば ならず、幸に任を終るを得るは実に同朋誘掖の恵に依る、乃ち謹みて曠任の罪を請ひ併せて示教の恩を謝す／然りと雖、世上の事固より明日を測らず、生等の任務未だ全く尽きざるものあり、若し我が校我が会の事にして急報を要するものあらば、七旬の休暇と雖尚ほ管城子を駆り本誌の号外を發して諸君に見えむことを期す」

[注]

- (1) 第三高等学校の成立過程については、神陵史編集委員会 [編]・阪倉篤義 [代表]『神陵史：第三高等学校八十年史』（昭和五十五年三月、三高同窓会）、厳平『三高の見果てぬ夢：中等・高等教育成立過程と折田彦市』（平成二十年五月、思文閣出版）を参照。高等学校全体については、筑田知義『旧制高等学校教育の成立』（昭和五十年二月、ミネルヴァ書房）、旧制高等学校資料保存会 [編]『資料集成 旧制高等学校全書』（全八巻・別巻、昭和五十五年七月—昭和六十年十二月、旧制高等学校資料保存会刊行部）を参照。
- (2) 会発足年の明治二十五年を干支紀年法で表すと「壬辰」である。
- (3) 当該雑誌の目録は別稿を設ける。
- (4) 七月から九月までの三か月間は雑誌が発行されていない。第三高等学校 [編集兼発行]『第三高等学校一覽』自明治二十五年九月至明治二十六年八月（明治二十六年一月、第三高等学校）第三章「学年 学期 授業時間 休業日」によると、「七月十一日ニ始り九月十日ニ終ル」期間は「夏期休業」にあたる。
- (5) 「第三高等学校壬辰会規則」（前掲『壬辰会雑誌』第一号）による。部会は「演説討論部、雑誌部、撃剣柔道部、陸上運動部、ベースボール部、水上運動部」に分かれていた。
- (6) 『壬辰会雑誌』第八号（明治二十五年十二月）の「雑誌部規約」第七条に「文苑花の下に／史伝／の二字を加ふること」と示される。
- (7) 例えば、水野岳「小泉鉄の精神史：一高『校友会雑誌』と第二次『新思潮』をとおして」（『有島武郎研究』第十二号、平成二十一年九月）、西澤忠志「日本における「演奏批評」の誕生：第一高等学校『校友会雑誌』を例として」（『文芸学研究』第二十二号、平成三十一年三月）などがある。
- (8) 例えば、古川江里子「近代日本のエリート教育における内面教育の検討：第一高等学校『校友会雑誌』を中心に」（『メディア史研究』第三十五号、平成二十六年二月）などがある。
- (9) 例えば、宮古正男「校友会雑誌号外（明治二十八年二月二十二日発行）第一高等学校野球部史：野球部史附規則」（『ベースボールロジー=Baseballlogy：野球文化學會論叢』第九号、平成二十年夏）などがある。
- (10) 薄田千穂の研究として、『龍南会雑誌』と雑誌部委員：明治期の動向を中心として」（『熊本大学五高記念館館報』第一号、平成二十一年十二月）、「大正・昭和の『龍南会雑誌』『龍南』と雑誌部委員：懸賞と検閲」（『熊本大学五高記念館館報』第二号、平成二十六年三月）などがある。
- (11) 森いずみの研究として、「旧制松本高等学校と「自治」：『校友会雑誌』を中心に」（『信州大学附属図書館研究』第十四号、令和七年一月）を参照。

- (12) 齊藤利彦〔編〕『学校文化の史的研究：中等諸学校の『校友会雑誌』を手がかりとして』（平成二十七年二月、東京大学出版会）序章「学校文化の探求へ」。齊藤による研究は副題にあるとおり、旧制中学校をはじめとする中等諸学校に関するものであるが、この姿勢は高等学校についても援用できると考える。
- (13) 第一高等学校の『校友会雑誌』批評欄でも、前号の内容や他校の校友会誌等に対する議論が行われていたことを、西澤忠志（前掲注（7））が指摘する。
- (14) 目録の「備考」に示したとおり、記事のタイトルおよび署名は、目次欄と本文とで異なることがままある。ここでは目次欄の表記で統一した。
- (15) 第十五号「文苑」欄には「詩歌数首」【連番：JIN-015-文苑-001】が載り、そこに河東秉五郎の俳号・青桐も確認できるが、批評内容を見ると、洛西閑人が批評対象としたのは「論説」のほうである。
- (16) 『河東碧梧桐全集』第一巻（平成十三年八月、短詩人連盟河東碧梧桐全集編纂室）巻末の「年譜」を見ると、明治二十六年の記述として、「十月、校友会誌「壬辰会雑誌」に「俳句について」を書き、旧派宗匠の腐敗振りを指摘すると共に、新時代にふさわしい世界の積極的開拓を説く」とあるに留まる。また、もう一つの批評「洛西閑人の高評を読む」に関する指摘はない。
- (17) 引用し、示す。

私は第三高等学校時代に、校友会雑誌に俳句論を書いた、と前にも言つた〔前掲『子規の回想』「吉田のしぐれ」を指す〕が、其の一つは、俳句滅亡論で、五七五といふ調子に囚はれてゐる音律詩は、数学のパラメーションでさへ割り出し得る有限の形式であり其の生命は限られた或る範囲のものである、と言つたやうなものだつた。この議論が、当時の校友会誌編集当事者だつた佐々醒雪一文学士、亡一等の問題になつて、一二度反駁論を交したこともあつた。

よく知られるように、明治二十年代まで、青桐と虚子は歩みをともにしており、二人は、第三高等学校の改組により第二高等学校に転校した後退学、上京した後は「日本」派の俳人として活躍するようになる。青桐が、明治二十七年に結成され「日本派と並立」（三好行雄ほか〔編〕『日本現代文学大事典』人名・事項篇〔平成六年六月、明治書院〕。執筆は山下一海）した「筑波会」の中心人物の一人であつた佐々と、この時点において考えを異にしていたことは想像に難くない。ただし、青桐は佐々が「当時の校友会誌編集当事者だつた」とするが、本稿「補足情報」で列挙したとおり、佐々は雑誌部の編集委員ではない。

〔付記〕

本稿をなすにあたり、査読者の方々に重要なご意見をいただいた。目録作成に関しては、琥珀書房の山本捷馬氏に有用な情報をいただいた。また、調査に際し、京都大学吉田南総合図書館学術情報掛の皆様にご配慮を賜った。記して感謝申し上げます。

引用文の改行は「／」で示した。〔 〕内の注記は、佐々木・西菌による。

（ささき ゆうき・本学国際高等教育院特定准教授）

（にしぞの ゆかり・本学人文学連携研究者）